

---

# 令和4年度 全国学力・学習状況調査

～登別市の調査結果～

---

## 令和4年度の登別市における調査結果の概要

### ○調査の概要

本調査は、義務教育の機会均等と水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力・学習状況を把握し、教育施策の成果と課題の検証により改善を図るとともに、学校での児童生徒への学習指導の充実や改善等に役立てること、加えて教育に関する継続的な検証改善サイクルの確立を目的として、全国の小学6年生と中学3年生を対象に平成19年度から継続実施されてきた。

今年度は、国語、算数・数学、理科の3教科に関する調査と、生活習慣や学習習慣等についての質問紙調査が行われ、登別市では、小学校265名、中学校315名が参加した。

また、出題形式は、平成31年度（令和元年度）より「主として『知識』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」を一体的に問うように構成されており、記述式の問題も一定割合で導入されている。

### ○教科に関する調査

- 小学校では、国語で全道及び全国の平均正答率を上回っている。算数で全道の平均正答率とほぼ同程度で、全国と比べるとやや下回っている。理科で全道及び全国の平均正答率を上回っている。
- 中学校では、国語で全道及び全国の平均正答率をやや下回っている。数学で全道及び全国の平均正答率を下回っている。理科で全道及び全国の平均正答率を下回っている。
- 無解答率については、小学校で、3教科とも全道及び全国と比べて低い設問が多い。中学校で、3教科とも全道及び全国と比べて低い設問もあるが、特に記述式の設問における無解答率の高さがうかがえる。
- 教科ごとの傾向は、次の通り。

#### 【国語】

小学校では、漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことはよくできている。登場人物の相互関係について、描写を基に捉えること、表現の効果を考えることに課題がある。中学校では、聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫することはよくできている。自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すことや表現の技法について理解することに課題がある。

#### 【算数・数学】

小学校では、示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述すること、目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることはよくできている。百分率で表された割合を分数で表したり、百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることに課題がある。中学校では、目的に応じて、式を変形したり読み取ったりして事柄が成り立つ理由を説明したり、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明したりことに課題がある。

#### 【理科】

小学校では、メスシリンダーという器具の理解や観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して解釈し、自分の考えをもつことはできている。日光は直進することや昆虫の体のつくりの理解に課題が見られる。中学校では、化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことはできている。考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討することや仮説と異なる結果が出る場合について、結果の意味を考え、観察・実験の操作や条件の制御などの探究の方法について検討し、探究の過程の見通しをもつことに課題がある。

## ○児童・生徒質問紙調査

### 【自分について】

- 「将来の夢や目標を持っている」「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」「いじめは、どんな理由があってもいけない」と回答した小中学生の割合が、全国と比べて高い。

### 【地域や人との関わりについて】

- 「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した小中学生の割合が、全国の割合と比べて高い。

### 【家庭生活・家庭学習について】

- 「毎日、同じくらいの時刻に起きる」と回答した小中学生の割合が、全国の割合と比べて高い。「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した小中学生の割合が、全国の割合と比べて高い。

### 【メディアについて】

- 「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている」と回答した中学生の割合は、全国の割合よりも高いが、「1日あたり、2時間以上テレビゲームをする」「1日あたり、スマホで一時間以上SNSや動画視聴をする」と回答した小中学生の割合は、全国の割合と比べて高い。「スマホ等の使い方について、家の人との約束を守る」と回答した小中学生の割合も、全国と比べて高い。

### 【学校での学習について】

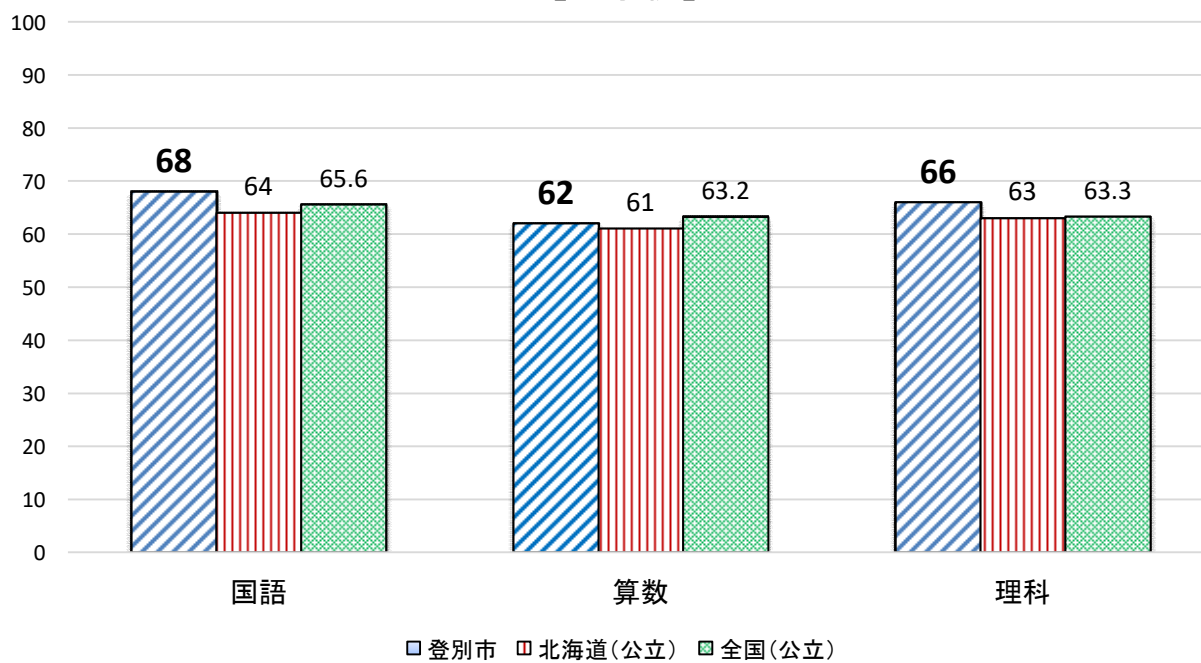
- 「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」「授業では、課題の解決に向け、自分で考え自分から取り組んだ」と回答した小中学生の割合が、全国の割合と比べて高い。

### 【ICT機器の活用について】

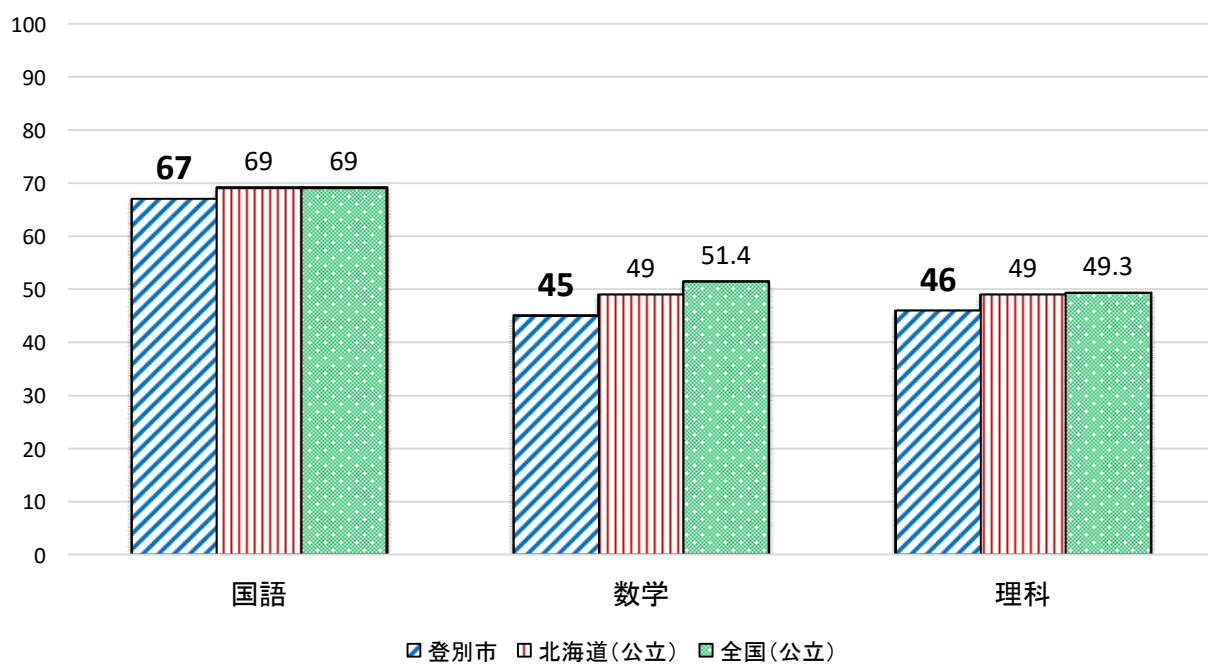
- 「ICTは学習の役に立つと思う」と回答した児童の割合は、全国の割合と比べて高い。また、「意見交換の場面において週1回以上のICTを活用する」と回答した生徒の割合は、全国の割合と比較して高い。

# 令和4年度 全国学力・学習状況調査「登別市の状況」 ～全道・全国との比較～

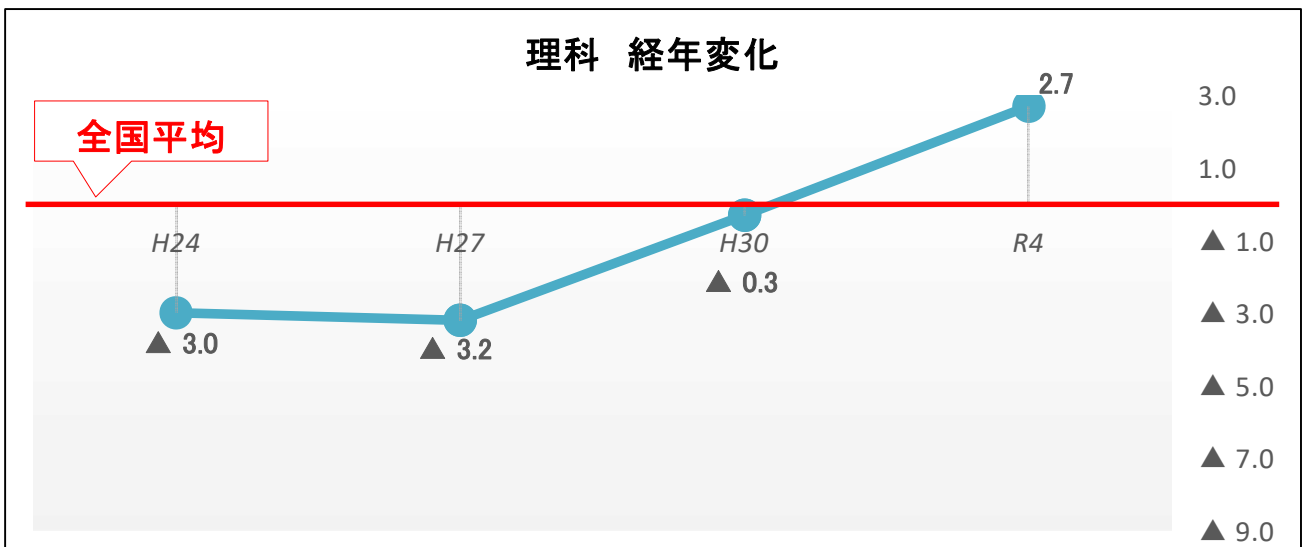
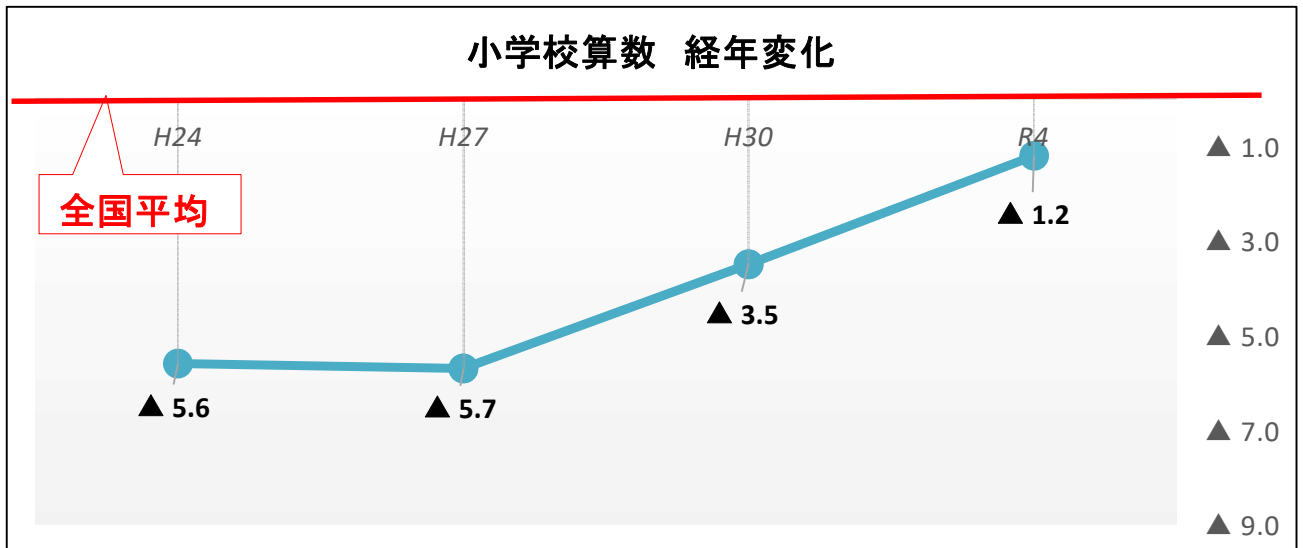
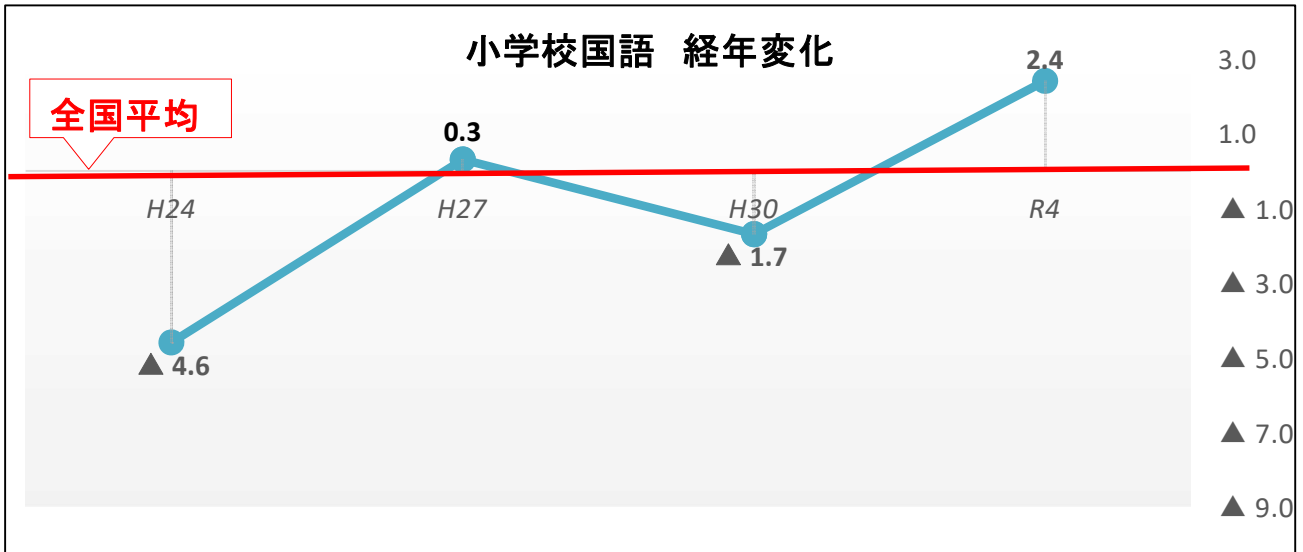
## 令和4年度 全国学力・学習状況調査結果 【小学校】



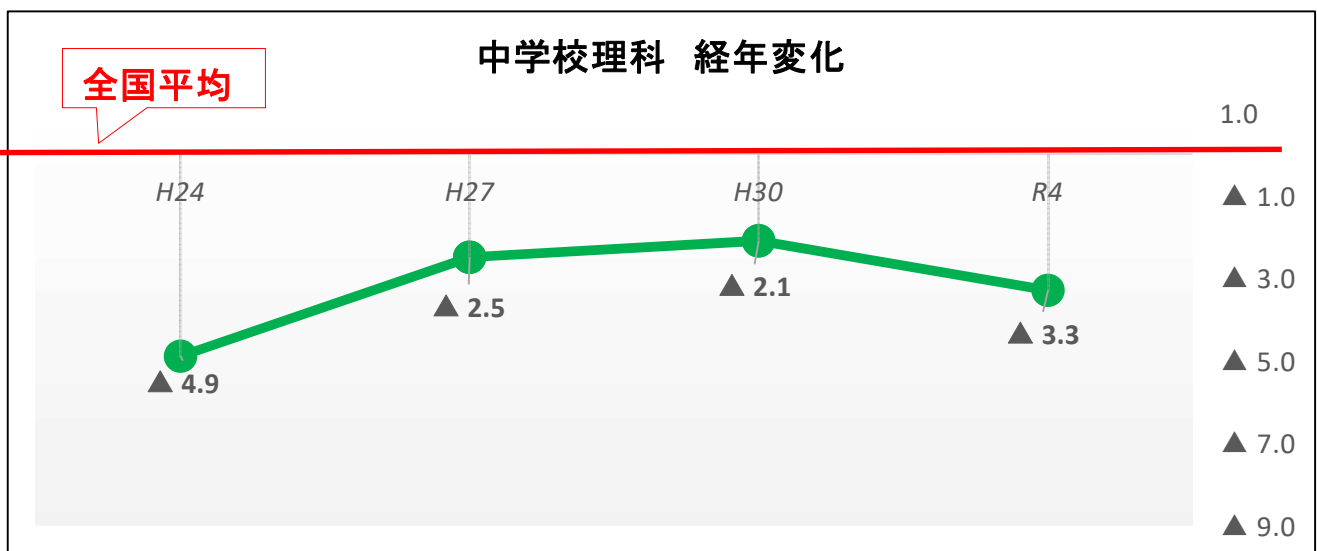
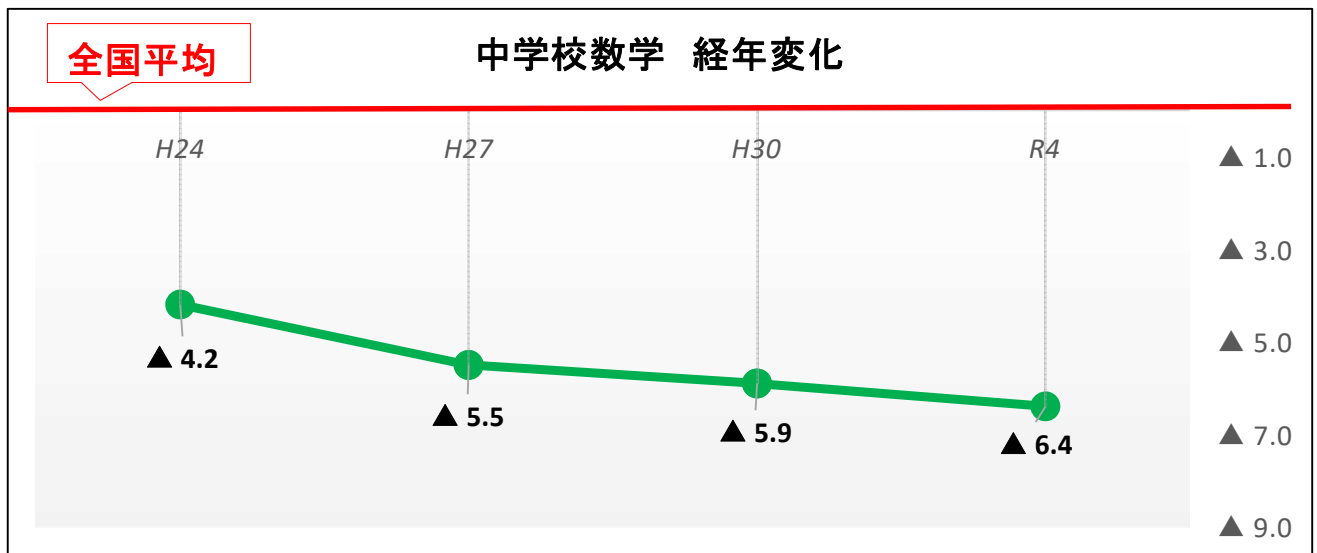
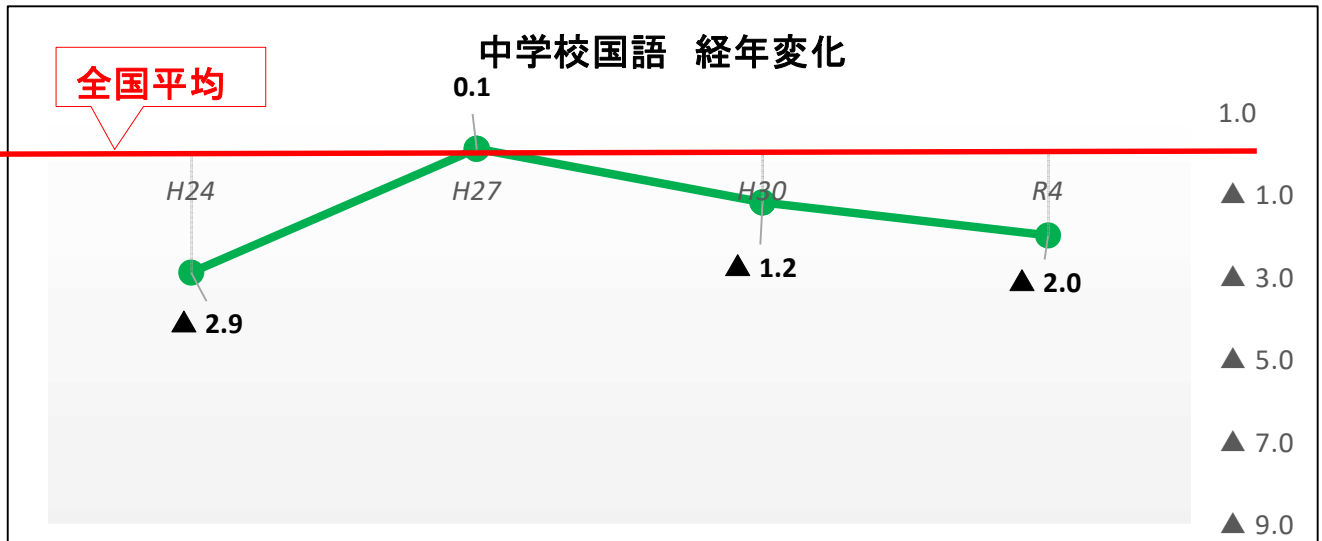
## 令和4年度 全国学力・学習状況調査結果 【中学校】



# 小学校 調査結果の経年変化 ～全国との比較～



# 中学校 調査結果の経年変化 ～全国との比較～



## ～小学校・国語における調査結果の概要～

### 【話すこと・聞くこと】

地域のためにできることについて話し合う（公園の美化）

○大問1 設問三

中村さんが前田さんに質問し、知りたかったことの説明として適切なものを選択する問題

- ・正答率84.9%（全国84.7%）  
無回答率0.4%（全国1.0%）
- ・必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えられている。

○大問1 設問四

「ゴミ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで、どのように話すかを書く問題

- ・正答率46.4%（全国47.7%）  
無回答率4.9%（全国3.0%）
- ・必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることを苦手としている。

### 【書くこと】

経験を基に考えたことを書く

（六年生としてがんばりたいこと）

○大問3 設問一

どのようなことに気を付けて書いたのか、適切なものを選択する問題

- ・正答率62.6%（全国59.2%）、無回答率0.4%（全国2.5%）
- ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることが、概ねできている。

○大問3 設問二

伝え合いの様子の一部を基に文章のよさを書く問題

- ・正答率38.9%（全国37.7%）、無回答率15.5%（全国14.5%）
- ・文章に対する感想や意見の伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができている児童の割合が全国平均よりも高い。

### 【読むこと】

物語を読んで、推薦する（那須田淳「銀色の幻想」）

○大問2 設問一（1）

「ぼく」の気持ちの説明として適切なものを選択する問題

- ・正答率は68.7%（全国68.4%）、無回答率0.0%（全国1.0%）
- ・登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることが、概ねできている。

○大問2 設問一（2）

「老人」が未来の「ぼく」だと考えられるところとして適切なものを選択する問題

- ・正答率は65.7%（全国70.6%）、無回答率0.0%（全国1.6%）
- ・登場人物の相互関係について、描写を基に捉えることが概ねできているが、正答率が全国平均を下回っている。

### 【知識・技能】

地域のためにできることについて話し合う（公園の美化）

○大問1 設問二

谷原さんや中村さんの発言の理由として適切なものを選択する問題

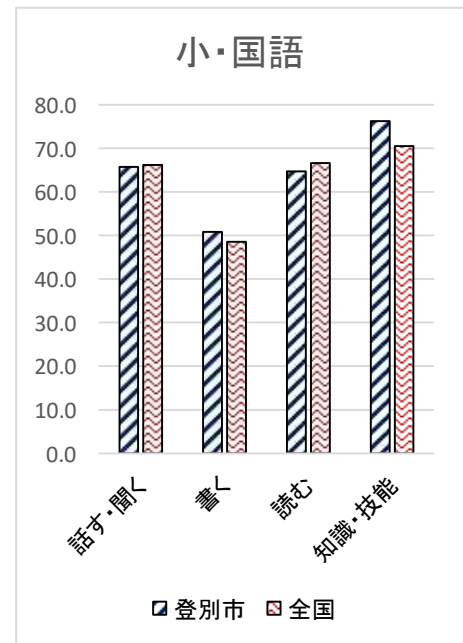
- ・正答率70.9%（全国68.8%）、無回答率1.1%（全国1.0%）
- ・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを、概ね捉えられている。

経験を基に考えたことを書く（六年生としてがんばりたいこと）

○大問3 設問三ア

指定された部分を漢字を使って書き直す問題

- ・正答率77.7%（全国65.2%）、無回答率6.4%（全国8.1%）
- ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができている。



## ◎質問紙調査から

「解答を文章で書く問題に対して、全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答した小学生の割合は83.8%で、全国の割合と比べて5.8ポイント高い。今後は、叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめるためには、一つの場面の叙述だけを対象とするにとどまらず、複数の場面の叙述を相互に関係付けながら読むことが重要である。さらに、高学年においては、場面の展開に沿って読みながら、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写などを捉え、優れた叙述について自分の考えをまとめることができるように指導することが大切である。

## ◎授業改善のための方策

### 【話すこと・聞くこと】

#### ○互いの立場を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる

- ・「考えをまとめる」とは、話し合いを通して様々な視点から検討し、互いの意見の共通点や相違点、利点や問題点等をまとめることである。話し合った後で考えをまとめる際には、様々な視点から検討したことを踏まえて、自分の考えをまとめることが求められる。異なる意見を自分の考えに生かせるように、例えば「～という意見もあったが」、「～という考えもあるけれど」などの表現を用いられるようにする。また、話し合いを始める際に話し合いの目的や方向性を検討すること、話し合いの展開や内容を踏まえて互いの意見を整理すること、様々な視点から検討して自分の考えをまとめることなどが重要である。

### 【書くこと】

#### ○文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける

- ・「共有」に関する指導事項の定着を図るためには、互いの文章に対する感想や意見を伝え合うことを通して、自分の文章のよいところを見付けることができるように指導する。自分の文章のよいところとは、第1学年及び第2学年では、「内容や記述などに見られる具体的なよさ」、第3学年及び第4学年では、「書こうとしたことの明確さ」、第5学年及び第6学年では「文章全体の構成や展開の明確さ」などである。
- ・伝え合う経験を積み重ねていくことで、自分の文章のよいところを見付けたり、それを言葉で表したりする指導を充実させる。さらに、互いの文章を読み合うことで、経験の取り上げ方や言葉の選び方、書き方の工夫を認め合い、自分の表現に生かそうとすることも大切である。自分の文章のよいところを見付ける経験を重ねる必要がある。

### 【読むこと】

#### ○登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える

- ・登場人物の行動の背景には、その行動に至るまでの気持ちがある場合が多い。そうした登場人物の気持ちを、行動や会話、地の文などの叙述を基に捉えていくことが求められる。学習にあたっては、登場人物の行動や気持ちを捉えることが必要となる言語活動を設定し物語全体を見通して、複数の叙述を基に行動や気持ちを捉えることができるように指導することが大切である。その際に、「どこからそう思ったのか」など、捉えたことの基になる叙述を明らかにすることを指導する。また、児童が複数の叙述に着目することができるように、捉えたことと基にした叙述について交流する活動を設定する。

### 【知識・理解】

#### ○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える。

- ・言葉には、話し手と聞き手の間に好ましい関係を築き、継続させる働きがある。特に話し合いにおいては、そうした相手とのつながりをつくる働きのある言葉を適切に用いながら、話し合いを進めていくよう指導する。



## ～小学校・算数における調査結果の概要～

### 【数と計算】

目的に応じて数量の関係に着目し数の処理の仕方を考察すること（買い物）

○大問1 設問（2）

14と21の最小公倍数を求める問題

・正答率69.3%（全国72.2%）

無回答率は2.3%（全国3.0%）

・二つの数の最小公倍数を求めることが概ねできている。

○大問1 設問（3）

カップケーキ7個分の値段を $1470 \div 3$ で求めることができるわけを書く問題

・正答率79.5%（全国76.0%）

無回答率は5.7%（全国5.2%）

・示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述することができている。

### 【図形】

図形の意味や性質を基に図形の構成の仕方を考察すること（プログラム）

○大問4 設問（2）

長方形のプログラムについて、向かい合う辺の長さを書く問題

・正答率84.1%（全国83.2%） 無回答率2.7%（全国4.7%）

・図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解している。

○大問4 設問（3）

辺の長さや角の大きさに着目し、ひし形をかくことができるプログラムを選ぶ問題

・正答率65.2%（全国66.5%） 無回答率3.0%（全国4.6%）

・図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について、概ね理解している。

### 【変化と関係】

二つの数量の関係について考察すること（果汁の割合）

○大問2 設問（4）

果汁が30%含まれている飲み物に果汁が180ml入っているときの、飲み物の量の求め方と答えを書く問題

・正答率50.8%（全国48.0%） 無回答率6.1%（全国5.5%）

・全国の平均正答率と比べて高いが、伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述することを苦手としている。

○大問2 設問（2）

果汁が40%含まれている飲み物の量が1000mLのときの果汁の量を書く問題

・正答率55.3%（全国64.6%） 無回答率3.4%（全国3.3%）

・百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることを苦手としている。

### 【データの活用】

目的に応じてデータの特徴や傾向を捉え考察すること（お楽しみ会・交流会）

○大問3 設問（1）

表のしりとり欄に入る数を求める式と答えを書く問題

・正答率75.4%（全国75.3%） 無回答率1.5%（全国2.1%）

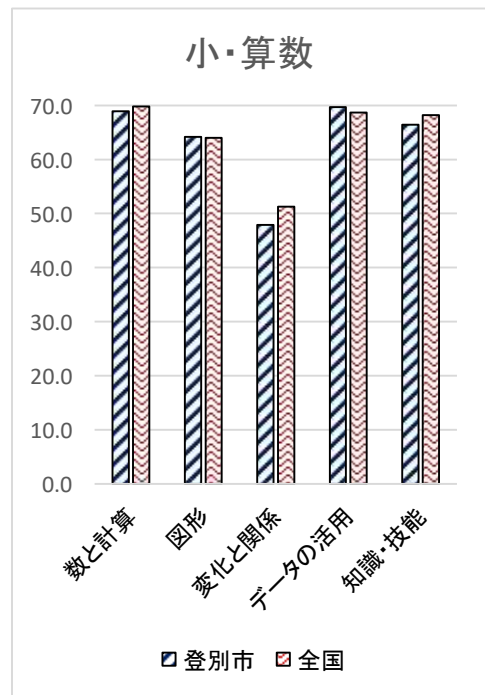
・表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることはできている。

○大問3 設問（3）

1年生と6年生が希望する遊びの割合を調べるためのグラフを選び、そのグラフから割合が一番大きい遊びを選ぶ問題

・正答率71.2%（全国66.8%） 無回答率1.9%（全国2.2%）

・目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることが、概ねできている。



## ◎質問紙調査から

「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな解き方を考える」と回答した児童の割合は50.8%で、全国の割合と比べて5.9ポイント高い。各学校において、粘り強く課題に取り組む指導を工夫してきた成果がうかがえる。今後は、日常生活の問題の解決のために、必要な情報を収集した上で条件に合うものを選択したり、示された方法を数理的に捉えて数学的な意味を見だし、問題場面に適用できるか考察し判断したりすることができるようにすることや、問題解決のために用いた方法を、日常生活の場面に戻って振り返ることで、算数が役立っていることを実感できるようにすることも意識する必要がある。

## ◎授業改善のための方策

### 【数と計算】

○目的に合った数の処理の仕方を考えることができるようにする

- ・日常生活において、数の大きさを見積もる必要があるときは、目的に応じて数を大きくみたり小さくみたりして、概算できるようにすることが重要である。その際、概数にする方法である切り上げ、切り捨て、四捨五入を用いて計算し、どの方法が適切であるかを判断できるようにする。

### 【図形】

○図形の意味や性質を基に、作図の仕方を考えることができるようにする

- ・図形を構成する要素に着目し、図形の意味や性質を基に、一つの図形に対して作図の仕方を多様に考えることが重要である。例えば、平行四辺形の作図では、二組の向かい合う辺がそれぞれ平行であることを基にした二枚の三角定規を用いる作図の仕方、二組の向かい合う辺がそれぞれ等しいことを基にしたコンパスを用いる作図の仕方などがある。また、コンピュータを用いて作図する場合も、図形を構成する要素に着目し、図形の意味や性質を基にすることがある。

### 【変化と関係】

○割合と基準量から、比較量を求めることができるようにする

- ・問題場面から、基準量、比較量、割合の関係を捉えることができるようにする。例えば、飲み物の量と果汁の割合から、果汁の量を求める活動が考えられる。その際、 $(\text{基準量}) \times (\text{割合}) = (\text{比較量})$ などの言葉の式だけでなく、下のように、自分にとって分かりやすい図をかいて数量の関係を捉え、その数量の関係から比較量を求める式を立てることができるようにする。

### 【データの活用】

○分類整理されたデータについて、目的に応じて筋道を立てて考察できるようにする

- ・自分の学級で行うお楽しみ会の遊びを二つ決める場合、希望する人数が多い遊びに決める方法の他に、より多くの人の希望が一つは通るように遊びを決める方法で、遊びを決める活動が考えられる。その際、一つの遊びを決めて、その遊びを希望していない児童が最も多く希望している遊びを調べ、選んだ遊びが一人でも多くの希望が通っているか確かめることができるようにすることが大切である。このように、目的に応じて筋道を立てて考察できるようにする。

## ～小学校・理科における調査結果の概要～

### 【「エネルギー」を柱とする領域】

#### 適切な記録

#### ○大問3 設問(2)

実験の結果から、問題の解決に必要な情報が取り出しやすく整理された記録を選ぶ問題

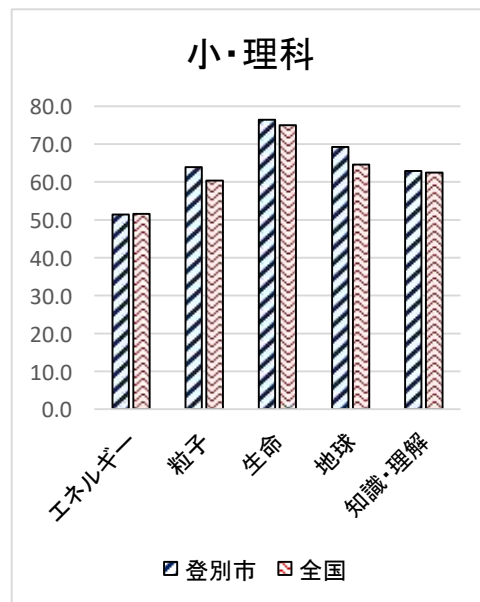
- ・正答率73.1% (全国74.4%)  
無回答率0.8% (全国1.3%)
- ・問題に対するまとめを導き出すことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録することができている。

追加された情報を基にしたより科学的な考えへの検討・改善、実験で得た結果を問題の視点で分析・解釈

#### ○大問3 設問(3)

鏡で跳ね返した日光の位置が変化していることを基に、継続して同じ条件で実験を行うために、実験の方法を見直し、新たに追加した手順を書く問題

- ・正答率は73.1% (全国68.9%)  
無回答率2.7% (全国5.1%)
- ・自分で発想した実験の方法と、追加された情報を基に、実験の方法を検討して改善し、自分の考えをもつことができている。



### 【「粒子」を柱とする領域】

#### 器具の理解、正しい使い方

#### ○大問2 設問(1)

一定量の液体の体積を適切にはかりとる器具の名称を書く問題

- ・正答率75.4% (全国67.8%) 無回答率4.2% (全国9.8%)
- ・メスシリンダーという器具を理解している児童が多い。

#### 自然の事物・現象を気付きの視点で分析・解釈

#### ○大問2 設問(4)

凍った水溶液について、試してみたいことを基に、見出された問題を書く問題

- ・正答率44.3% (全国39.3%) 無回答率10.2% (全国8.7%)
- ・全国の平均正答率と比べて高いが、自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述することを苦手としている。

### 【「生命」を柱とする領域】

#### 追加された情報を基に、より科学的な考えへの検討・改善

#### ○大問1 設問(2)

自分の観察の記録と新たに追加された他者の観察の記録を基に、問題に対するまとめを見直して書く問題

- ・正答率74.6% (全国67.5%) 無回答率2.7% (全国5.0%)
- ・自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述することができている。

#### 提示された情報を複数の視点で分析・解釈

#### ○大問1 設問(4)

資料を基に、カブトムシは育ち方と主な食べ物の特徴から二次元の表のどこに当てはまるかを選ぶ問題

- ・正答率79.5% (全国76.1%) 無回答率0.4% (全国0.7%)
- ・提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができている。

## 【「地球」を柱とする領域】

### 問題を解決するまでの道筋を構想

#### ○大問4 設問(2)

夜の気温の変化について、他者の予想を基に、記録の結果を表したグラフを見通して選ぶ問題

- ・正答率71.6% (全国64.5%) 無回答率0.4% (全国1.3%)
- ・予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができている。

### 観察などで得た結果を複数の視点で分析・解釈

#### ○大問4 設問(3)

結果からいえることは、提示された結果のどこを分析したものなのかを選ぶ問題

- ・正答率52.7% (全国45.5%) 無回答率5.3% (全国6.5%)
- ・全国の平均正答率と比べると高いが、観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことを苦手としている。

## ◎質問紙調査から

「理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えている」と回答した児童の割合は50.8%で、全国の割合と比べて3.8ポイント高い。今後は、実験結果を整理して結論をまとめる際に、結果を事実としての確に捉え、事実から解釈したことを「実験の結果からいえること」として言及することができるように指導したり、より妥当な考えに改善していくために、問題解決の様々な場面で、自分の考えを表現したり見直したりするなどの話合いができるように指導したりする。

## ◎授業改善のための方策

### 【「エネルギー」を柱とする領域】

#### ○知識を相互に関連付けて、より深く理解できるようにする

- ・知識をより深く理解できるようにするために、主体的な問題解決を通して知識を習得できるようにすることや、習得した知識を実際の自然の事物・現象と関連付けて説明できるようにする。

### 【「粒子」を柱とする領域】

#### ○観察、実験の結果を基にして、予想について検討して、改善し、より妥当な考えをつくり出すことができるようにする

- ・観察、実験の結果を基にして、予想について検討して、改善し、より妥当な考えをつくり出すことができるようにするためには、観察、実験の結果が出た後に、予想と結果について、それらの整合性を調べ、自分の考えをより科学的なものに変容させることができるようにする。

### 【「生命」を柱とする領域】

#### ○知識をより深く理解できるようにする

- ・複数の対象について調べ、調べたことを関連付けることができるようにすることを意識させる。そのため、予想や仮説を基に、視点を明確にして調べ、関連付ける場面を設定し、例えば、昆虫の体のつくりについて、頭、胸、腹といった部分に着目して見いだした問題を解決する中で、複数の昆虫の体のつくりについて関連付けて説明し、理解を深められるようにする。

### 【「地球」を柱とする領域】

#### ○観察、実験などで得た結果について分析して、解釈し、より妥当な考えをつくり出すことができるようにする

- ・観察、実験などで得た結果について分析して、解釈し、より妥当な考えをつくり出すことができるようにするためには、問題を把握し、観察、実験などの結果と既習の内容や生活経験とを関連付けながら、結果の傾向を捉え、問題に正対した結論を導きだせるようにすることが重要である。

## ～中学校・国語における調査結果の概要～

### 【話すこと・聞くこと】

スピーチをする（「最近気になったこと」）

○大問1 設問一

スピーチの一部を呼びかけたり問い返したりする表現に直す問題

- ・正答率76.8%（全国74.7%）  
無回答率3.5%（全国3.8%）
- ・聞き手の興味・感心などを考慮して表現を工夫することは、できている。

○大問1 設問二

話の進め方のよさを具体的に説明したものとして適切なものを選択する問題

- ・正答率65.1%（全国65.1%）  
無回答率0.0%（全国0.1%）
- ・論理の展開などに注意して聞くことが、概ねできている。

### 【書くこと】

意見文を書く（「先端技術との関わり方」）

○大問2 設問三

農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える問題

- ・正答率46.7%（全国46.5%） 無回答率12.4%（全国9.0%）
- ・全国の平均正答率よりも高いが、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことを苦手としている。

### 【読むこと】

文学的な文章を読む（「都会のビーチ」）

○大問3 設問三

話の展開に沿って「おれ」の行動や心情を並べ替える問題

- ・正答率は59.0%（全国62.0%） 無回答率1.3%（全国1.0%）
- ・場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることを苦手としている。

○大問3 設問四

「おれ」は何を「なるほど」と思ったのかについて、話の展開を取り上げて書く問題

- ・正答率は70.8%（全国73.8%） 無回答率17.8%（全国13.3%）
- ・場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈することが、概ねできている。

### 【知識・技能】

意見文を書く（「先端技術との関わり方」）

○大問2 設問一

意見文の下書きの一部について、文末の表現を直す意図として適切なものを選択する問題

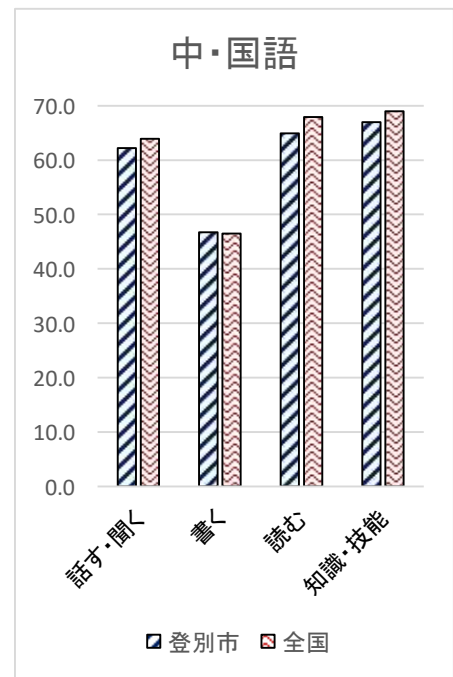
- ・正答率79.0%（全国82.3%） 無回答率0.0%（全国0.2%）
- ・助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使うことはできている。

文学的な文章を読む（「都会のビーチ」）

○大問3 設問二

「途方に暮れた」の意味として適切なものを選択する問題

- ・正答率81.6%（全国84.0%） 無回答率0.0%（全国0.3%）
- ・事象や行為、心情を表す語句について理解できている。



## ◎質問紙調査から

「国語の勉強は好き」と肯定的な回答をした中学生の割合は64.4%で、全国の割合と比べて2.5ポイント高い。今後は、文章の構成や展開を理解し、内容を的確に捉える力を身に付けるために、文章の特徴を把握するとともに、これまでの読書経験や体験などを踏まえ、内容や表現を想像・分析・比較・対照・推論等によって相互に関連付けて読むように指導する必要がある。その際、生徒自身が目的意識をもって文章を読み、必要な情報を整理することができるように指導を工夫することが重要である。

## ◎授業改善のための方策

### 【話すこと・聞くこと】

#### ○音声の働きや仕組みを意識しながら表現を工夫して話す

- ・自分の考えが分かりやすく伝わるように話すためには、聞き手に応じた語句を選択したり、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、言葉遣いなどに注意したりするなどして、表現を工夫することが大切である。例えば、アクセント、イントネーション、プロミネンス（文中のある語を強調して発音すること）などの音声的特質が多様な声を作り出し、話したり聞いたりする活動に影響していることが認識できるように、実際に声に出しながら工夫を考えたり効果を確認したりすることが重要である。

### 【書くこと】

#### ○考えの根拠が明確になるように情報を引用して書く

- ・意見文を書く際には、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にすることが大切である。そのために、まず、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確かめるとともに、その上で、自分の思いや考えを繰り返すだけではなく、根拠を文章の中に記述する必要があることを理解して書くように指導する。根拠を記述するに当たっては、根拠となる複数の事例や専門的な立場からの知見を引用することなども考えられる。

### 【読むこと】

#### ○文章の展開に注意しながら、叙述に即して文章の内容を把握する

- ・文学的な文章を読む際には、文章の中の時間的、空間的な場面の展開、登場人物の相互関係や心情の変化、行動や情景の描写などに注意しながら読み進めることが大切である。その際、細部の描写にも着目しながら物事の様子や場面、行動や心情などの変化を丁寧に捉えていくことも意識させるようにする。例えば、心情を表す言葉を取り上げてその変化をたどったり、叙述の細かな違いに注意して読み、それぞれの叙述が表している心情の違いを考えたりできるようにする。

### 【知識・技能】

#### ○助詞や助動詞の働きを理解し、文や文章の中で使う

- ・助詞や助動詞の働きを踏まえ、場面に応じて適切に使い分けることができるように指導する。助詞は、単語と単語との関係を示したり、意味を添えたりする働きをもつ品詞であり、助動詞は、意味を付け加え叙述を助けたり判断を示したりする品詞である。これらの付属語を使うことによって、自分が伝えたい微妙なニュアンスを相手によりよく伝えることができることを理解し、話や文章の中で適切に使うことができるようにする。

## ～中学校・数学における調査結果の概要～

### 【数と計算】

#### 素因数分解

##### ○大問 1

#### 42を素因数分解する問題

- ・正答率42.2% (全国52.2%)  
無回答率14.0% (全国11.5%)
- ・事前数を素数の積で表すことを苦手としている。

#### 構想を立てて説明し、統合的、発展的に考察すること (2つの偶数の和)

##### ○大問 6 設問 (1)

#### 同じ偶数の和である $2n + 2n = 4n$ について、 $n$ が9のときどのような計算を表しているかを書く問題

- ・正答率68.3% (全国73.8%)  
無回答率7.9% (全国6.0%)
- ・問題場面における考察の対象を明確に捉えることが、概ねできている。

### 【図形】

#### 反例

##### ○大問 3

#### ある予想がいつでも成り立つかどうかを示すことについて、正しく述べたものを選ぶ問題

- ・正答率42.9% (全国44.9%)、無回答率0.3% (全国0.4%)
- ・反例の意味を理解できていない生徒が多い。

#### 見出した図形の性質を、与えられた条件を基に考察すること (四角形と正三角形)

##### ○大問 9 設問 (1)

#### 証明で用いられている三角形の合同条件を書く問題

- ・正答率62.9% (全国73.2%)、無回答率12.1% (全国7.5%)
- ・証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を、概ね理解している。

### 【関数】

#### 変化の割合

##### ○大問 4

#### 変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ問題

- ・正答率34.3% (全国37.9%)、無回答率0.6% (全国0.4%)
- ・一次関数の変化の割合の意味を理解することに課題があると考えられる。

#### 日常的な事象の数学化と問題解決の方法(二酸化炭素量の削減の取組)

##### ○大問 8 設問 (1)

#### 与えられたグラフにおいて、点Eの座標を書く問題

- ・正答率52.1% (全国54.6%)、無回答率9.2% (全国7.2%)
- ・与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることに課題があると考えられる。

### 【データの活用】

#### 確率

##### ○大問 5

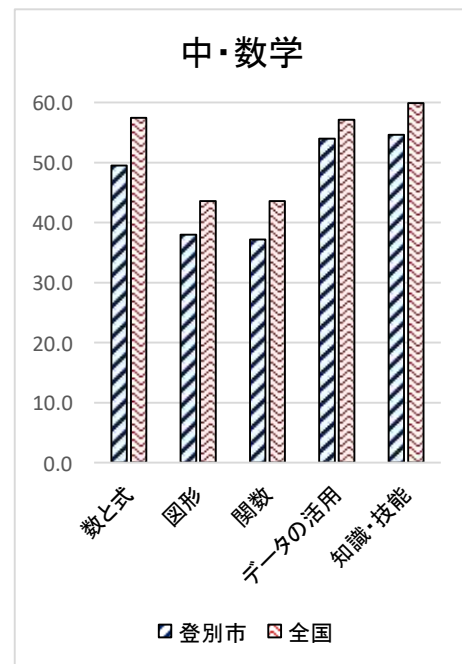
#### 容器のふたを投げたときに、下向きになる確率を選ぶ問題

- ・正答率77.8% (全国83.3%)、無回答率0.3% (全国0.3%)
- ・多数の観察や多回数の試行によって得られる確率の意味を理解している。

##### ○大問 7 設問 (1)

#### コマ回し大会で使用するコマをヒストグラムの特徴を基に選び、選んだ理由を説明する問題

- ・正答率42.9% (全国44.0%) 無回答率1.3% (全国1.4%)
- ・データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られる。



## ◎質問紙調査から

「数学の勉強は大切」と回答をした生徒の割合は53.0%で、全国の割合と比べて0.9ポイント高い。今後は、様々な問題を数学を活用して解決できるようにするために、問題解決の方法に焦点を当てて「用いるもの」と「用い方」を明確にして問題解決の方法を説明する活動を充実することが大切である。その際に、問題解決のために表した表、式、グラフをどのように用いればよいか説明し合う場面を設定し、検討する活動を充実させることが大切である。

## ◎授業改善のための方策

### 【数と計算】

○連立二元一次方程式を用いて問題解決することを通して、数学を利用することのよさや意義を実感できるようにする

- ・具体的な問題を連立二元一次方程式を活用して解決する際に、問題の中の数量を整理し、その中から二通りに表すことができる数量を見いだして、二つの変数を用いた連立二元一次方程式をつくり、それを解き、求めた解を問題に即して解釈し、問題の答えを求めるといった一連の活動を経験することにより、数学を利用することのよさや意義を実感させることが大切である。

○予想した事柄が成り立つことの説明を振り返り、文字を用いた式がどのような事柄を表しているかを確認できるようにする

- ・問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるようにするために、予想した事柄が成り立つことの説明を振り返り、文字を用いた式と具体的な数を用いた式とを相互に関連付けながら、文字を用いた式がどのような事柄を表しているのかを理解できるように指導する。

### 【図形】

○ある条件の下で成り立つ図形の性質を見だし、それが成り立つ理由を数学的に説明できるようにする

- ・結論を導くために何が分かればよいかを明らかにしたり、与えられた条件を整理したり、着目すべき性質や関係を見だし、事柄が成り立つ理由を、筋道を立てて考えたりする活動を取り入れ、数学的に説明できるようにする。

### 【関数】

○一次関数の変化の割合の意味を理解し、それを求めることができるようにする

- ・伴って変わる二つの数量 $x$ 、 $y$ の変化の様子を表から読み取り、一次関数 $y = ax + b$ の変化の割合を求めることができるように指導することが大切である。その際、 $x$ 、 $y$ の増加量やその割合を調べる活動を通して、変化の割合の意味を理解できるようにする。

○与えられた表やグラフから情報を読み取り、座標平面上の点を座標を用いて表すことができるようにする

- ・表やグラフと具体的な事象を対応させ、グラフ上の点が具体的な事象では何を表しているのかを捉える活動を取り入れ、与えられた表やグラフを関連付けて、必要な情報を適切に読み取ることができるようにする。

### 【データの活用】

○四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味を理解できるようにする

- ・複数の集団のデータの分布に着目し、その傾向を比較して読み取る活動を通して、四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味を理解できるように指導する。その際、箱ひげ図は複数のデータの分布を比較するとき、視覚的に比較がしやすい統計的な表現であることを確認する。



## ～中学校・理科における調査結果の概要～

### 【「エネルギー」を柱とする領域】

タッチパネルを科学的に探究する

○大問 1 設問 (2)

タッチパネルの反応に水が関係しているかを調べるために、変える条件と変えない条件を適切に設定した実験操作の組合わせを選択する問題

- ・正答率75.2% (全国78.5%)
- ・無回答率0.0% (全国0.1%)
- ・モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できている。

押して使うばねを科学的に探究する

○大問 5 設問 (2)

「ばねが縮む長さは、加える力の大きさに比例するか」という課題に正対した考察を行うために、適切に処理されたグラフを選択する問題

- ・正答率41.9% (全国45.0%)
- ・無回答率1.3% (全国0.4%)
- ・課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能が身に付いていないと考えられる。

### 【「粒子」を柱とする領域】

水素の利用を科学的に探究する

○大問 3 設問 (1)

分子のモデルを表した図を基に、水素の燃焼を化学反応式で表す問題

- ・正答率81.0% (全国80.1%) 無回答率0.0% (全国0.1%)
- ・化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式であらわすことができている。

水の状態変化を科学的に探究する

○大問 7 設問 (2)

吸湿発熱繊維に水蒸気を多く含む空気を通した一つの実験だけで行った考察について、課題に正対しているかどうかを検討し、必要な実験を指摘する問題

- ・正答率48.9% (全国53.4%) 無回答率1.3% (全国1.0%)
- ・実験の結果が考察の根拠として十分かどうかを検討し、必要な実験を指摘して、実験の計画を改善できるかどうかをみる。

### 【「生命」を柱とする領域】

アリの行列を科学的に探究する

○大問 8 設問 (1)

アリが視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を基に、課題に正対した考察を記述する問題

- ・正答率53.3% (全国55.2%)、無回答率15.9% (全国11.6%)
- ・実験の結果が考察の根拠として十分かどうか検討し、必要な実験を指摘して、実験の計画を改善することに課題が見られる。

○大問 8 設問 (2)

予想や仮説と異なる実験の結果が出る場合、その意味することや考えられる可能性について考え、実験の操作や条件制御の可能性を指摘する問題

- ・正答率47.3% (全国55.1%) 無回答率47.3% (全国55.1%)
- ・予想や仮説と異なる結果が出る場合について、結果の意味を考え、観察、実験の操作や条件の制御などの探究の方法について検討し、探究の過程の見通しをもつことのできるかどうかをみることに課題があると考えられる。

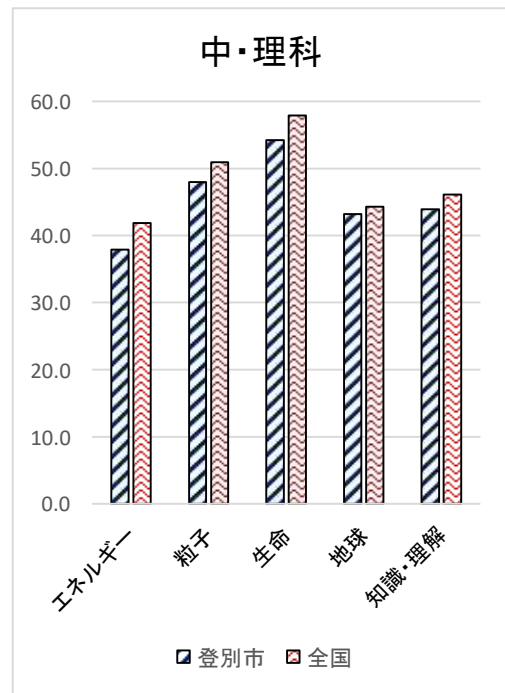
### 【「地球」を柱とする領域】

天気の変化を科学的に探究する

○大問 2 設問 (1)

観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を空気の柱の長さで説明する際、適切な長さの変化を選択する問題

- ・正答率55.6% (全国54.2%) 無回答率0.3% (全国0.2%)
- ・全国の平均正答率よりも高いが、観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を考える学習過程において、観測地の標高を空間的に捉え、気圧の概念を空気の柱で説明できるか問うことで、気圧に関する知識及び技能を十分身に付けているとは言いがたい。



○大問6 設問(2)

陸上のB地点で古生代のサンゴの化石が観察されることについて、垂直方向の変動だけで推論した他者の考察を検討し、水平方向の移動も踏まえて、検討して改善できているかどうかをみる問題

- ・正答率59.0% (全国60.3%) 無回答率0.6% (全国0.6%)
- ・過去の大地の変動について、垂直方向の移動だけで推論した他者の考察を、水平方向の移動も踏まえて、検討して改善することに課題があると考えられる。

## ◎質問紙調査から

「理科の授業で、観察や実験の結果を基に考察している」と肯定的な回答をした生徒の割合は82.2%で、全国の割合と比べて3.3ポイント高い。

今後は、主体的に探究する学習活動に取り組めるようにする上で、自分の考えをもち、自分や他者の考えを検討して改善することが大切である。指導にあたっては、予想や仮説を立てる場面では、はじめに習得した知識・技能や日常生活の経験から、自分の考えをもつようにする。次に自分の考えを、対話を通して生徒自身が検討して改善できるように、助言や問い返しをする。また、考察の場面における話し合いでは、「予想や仮説と観察・実験の結果が一致しているのかどうか」という視点や、課題に正対した考察になっているかなどの視点を明示する。

## ◎授業改善のための方策

### 【「エネルギー」を柱とする領域】

#### ○考察の妥当性を高めるために、実験の計画を検討して改善できるようにする

- ・身近な物理現象を科学的に探究する上で、考察の妥当性を高めるために、実験結果の処理について振り返り、実験の計画を検討して改善できるようにする。測定値の不足から妥当性の高い考察が行えない場合、測定する間隔や範囲などの改善点を明確にし、それらを基に実験の計画を検討して改善する学習場面を設定するようにする。

### 【「粒子」を柱とする領域】

#### ○化学変化を粒子の保存性に着目し、分析して解釈できるようにする

- ・身近な現象を科学的に探究する上で、化学変化に関する知識及び技能を活用して、化学変化を粒子の保存性に着目し、分析して解釈できるよう指導する。そのために、水の電気分解などの化学変化を原子や分子のモデルで表す学習場面を設定し、化学変化に関係する原子の種類や数が変化しないことに気付くことができるようにする。その際、原子や分子のモデルで表した複数の化学変化を比較し、粒子の保存性に気付くようにする。

### 【「生命」を柱とする領域】

#### ○主として共通性と多様性の視点で捉え、動物の体のつくりを分析して解釈できるようにする

- ・身近な動物の外部形態の観察を行い、その観察記録などに基づいて、主として共通性と多様性の視点で捉え、脊椎動物の体のつくりを比較し、分析して解釈できるようにする。その際、いろいろな動物を脊椎動物と無脊椎動物に分類でき、さらに脊椎動物については、五つの仲間に分類できることを見いだして理解できるようにする。

### 【「地球」を柱とする領域】

#### ○地層の傾きを主として時間的・空間的な視点で捉え、分析して解釈できるようにする

- ・地層の広がり方を理解する上で、露頭のスケッチの位置関係をルートマップから把握して空間として認識し、分析して解釈できるようにする。そのために、例えば、地層モデルや露頭の360度パノラマ画像を活用して地層を立体的に捉え、生徒が試行錯誤しながら広がり方や傾きを考える学習場面を設定するとともに、露頭に対して自分がどの方位から見ているのかを常に意識して、地層の傾きを分析して解釈できるようにする。

# 小学校国語

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)				無解答率(%)			
			市	道	国	国との比較	市	道	国	国との比較
1一	【話し合いの様子の一部】における谷原さんの発言の理由として適切なものを選択する	話し言葉と書き言葉との違いを理解する	89.1	85.4	85.5	3.6	0.8	0.8	0.9	-0.1
1二	【話し合いの様子の一部】における谷原さんや中村さんの発言の理由として適切なものを選択する	言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える	70.9	67.4	68.8	2.1	1.1	0.9	1.0	0.1
1三	【話し合いの様子の一部】で、中村さんが前田さんに質問し、知りたかったことの説明として適切なものを選択する	必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える	84.9	83.2	84.7	0.2	0.4	0.9	1.0	-0.6
1四	「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで、 <input type="text"/> でどのように話すかを書く	互いの立場や意図を明確にしなが ら計画的に話し合い、自分の考 えをまとめる	46.4	44.2	47.7	-1.3	4.9	3.5	3.0	1.9
2一 (1)	「ぼく」の気持ちの説明として適切なものを選択する	登場人物の行動や気持ちなどについて、 叙述を基に捉える	68.7	67.6	68.4	0.3	0.0	0.9	1.0	-1.0
2一 (2)	「老人」が未来の「ぼく」だと考えられるところとして適切なものを選択する	登場人物の相互関係について、 描写を基に捉える	65.7	68.4	70.6	-4.9	0.0	1.4	1.6	-1.6
2二	物語から伝わってくることを考え、【森田さんの文章】の <input type="text"/> A <input type="text"/> に入る内容を書く	人物像や物語の全体像を具体的に 想像する	67.9	66.4	68.3	-0.4	9.8	13.6	12.2	-2.4
2三	【山村さんの文章】の <input type="text"/> B <input type="text"/> に入る内容として適切なものを選択する	表現の効果を考える	56.6	58.2	59.2	-2.6	1.5	3.1	3.2	-1.7
3一	【文章2】の <input type="text"/> の部分で、どのようなことに気を付けて書いたのか、適切なものを選択する	文章全体の構成や書き表し方などに 着目して、文や文章を整える	62.6	59.1	59.2	3.4	0.4	2.4	2.5	-2.1
3二	【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよさを書く	文章に対する感想や意見を伝え合 い、自分の文章のよいところを見 付ける	38.9	35.8	37.7	1.2	15.5	16.4	14.5	1.0
3三ア	【文章2】の中の下線部アを、漢字を書き直す。(くが)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	77.7	65.4	65.2	12.5	6.4	7.9	8.1	-1.7
3三イ	【文章2】の中の下線部イを、漢字を書き直す。(ほんせい)		64.9	59.4	58.7	6.2	6.8	10.2	10.2	-3.4
3三ウ	【文章2】の中の下線部ウを、漢字を書き直す。(したしむ)		69.1	65.8	67.1	2.0	10.9	15.4	14.7	-3.8
3四	(一)から(二)に書き直した際、気を付けた内容として適切なものを選択する	漢字や仮名の大きさ、配列に注 意して書く	85.7	75.9	77.9	7.8	3.4	5.7	5.9	-2.5

# 小学校算数

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)				無解答率(%)			
			市	道	国	国との比較	市	道	国	国との比較
1 (1)	1050×4を計算する	被乗数に空白のある整数の乗法の計算をすることができる	91.7	92.3	92.4	-0.7	0.0	0.4	0.3	-0.3
1 (2)	14と21の最小公倍数を求める	二つの数の最小公倍数を求めることができる	69.3	70.1	72.2	-2.9	2.3	4.1	3.0	-0.7
1 (3)	カップケーキ7個分の値段を、1470÷3で求めることができるわけを書く	示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる	79.5	73.5	76.0	3.5	5.7	6.4	5.2	0.5
1 (4)	85×21の答えが1470より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ	示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる	31.1	36.0	34.8	-3.7	0.4	1.0	0.9	-0.5
2 (1)	果汁が25%含まれている飲み物の量を基にしたときの、果汁の量の割合を分数で表す	百分率で表された割合を分数で表すことができる	65.2	69.0	71.1	-5.9	5.7	4.7	3.9	1.8
2 (2)	果汁が40%含まれている飲み物の量が1000mlのときの、果汁の量を書く	百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができる	55.3	61.4	64.6	-9.3	3.4	4.0	3.3	0.1
2 (3)	果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ	示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している	20.5	21.0	21.4	-0.9	1.5	1.2	1.1	0.4
2 (4)	果汁が30%含まれている飲み物に果汁が180ml入っているときの、飲み物の量の求め方と答えを書く	伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できる	50.8	41.8	48.0	2.8	6.1	6.7	5.5	0.6
3 (1)	表のしりとり欄に入る数を求める式と答えを書く	表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができる	75.4	70.2	75.3	0.1	1.5	2.6	2.1	-0.6
3 (2)	分類整理されたデータから、全員の希望が一つは通るように、遊びを選ぶ	分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できる	62.5	61.3	63.9	-1.4	0.8	1.7	1.6	-0.8
3 (3)	1年生と6年生が希望する遊びの割合を調べるためのグラフを選び、そのグラフから割合が一番大きい遊びを選ぶ	目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる	71.2	66.8	66.8	4.4	1.9	2.6	2.2	-0.3
3 (4)	1年生の希望をよりかなえるためのポイント数の求め方と答えを書く	加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述できる	66.3	63.8	67.7	-1.4	9.8	10.4	8.6	1.2
4 (1)	示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す	正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる	50.4	49.0	48.8	1.6	1.5	4.4	3.8	-2.3
4 (2)	長方形のプログラムについて、向かい合う辺の長さを書く	図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解している	84.1	82.1	83.2	0.9	2.7	5.6	4.7	-2.0
4 (3)	辺の長さや角の大きさに着目し、ひし形をかくことができるプログラムを選ぶ	図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解している	65.2	64.2	66.5	-1.3	3.0	5.3	4.6	-1.6
4 (4)	示されたプログラムでかくことができる図形を選ぶ	示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できる	57.2	54.5	57.6	-0.4	3.0	5.9	5.1	-2.1

# 小学校理科

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)				無解答率(%)			
			市	道	国	国との比較	市	道	国	国との比較
1 (1)	見いだされた問題を基に、観察の記録が誰のものであるかを選ぶ	問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる	94.3	92.7	92.9	1.4	0.0	0.2	0.2	-0.2
1 (2)	自分の観察の記録と新たに追加された他者の観察の記録を基に、問題に対するまとめを見直して書く	自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できる	74.6	65.4	67.5	7.1	2.7	5.4	5.0	-2.3
1 (3)	昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナナホシテントウが昆虫であるかどうかを説明するための視点を選ぶ	昆虫の体のつくりを理解している	69.7	72.7	73.1	-3.4	0.0	0.3	0.3	-0.3
1 (4)	資料を基に、カブトムシは育ち方と主な食べ物の特徴から二次元の表のどこに当てはまるのかを選ぶ	提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる	79.5	75.5	76.1	3.4	0.4	0.7	0.7	-0.3
1 (5)	育ち方と主な食べ物の二次元の表から気付いたことを基に、昆虫の食べ物に関する問題を見いだして選ぶ	観察などで得た結果を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる	63.6	64.4	65.5	-1.9	1.5	1.5	1.4	0.1
2 (1)	一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書く	メスシリンダーという器具を理解している	75.4	74.3	67.8	7.6	4.2	8.0	9.8	-5.6
2 (2)	水50mLをはかり取る際に、メスシリンダーに入れた水の量を正しく読み取り、さらにスポイトで加える水の量を選ぶ	メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けている	71.6	70.3	70.0	1.6	0.0	0.6	0.6	-0.6
2 (3)	水溶液の凍り方について、実験の結果を基に、それぞれの水溶液が凍る温度を見だし、問題に対するまとめを選ぶ	自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことができる	64.4	60.8	62.8	1.6	0.4	1.0	1.0	-0.6
2 (4)	凍った水溶液について、試してみたいことを基に、見いだされた問題を書く	自然の事象・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる	44.3	36.8	39.3	5.0	10.2	8.8	8.7	1.5
3 (1)	光の性質を基に、鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ	日光は直進することを理解している	23.5	28.3	27.8	-4.3	0.0	0.6	0.6	-0.6
3 (2)	実験の結果から、問題の解決に必要な情報が取り出しやすく整理された記録を選ぶ	問題に対するまとめを導きだすことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録している	73.1	73.7	74.4	-1.3	0.8	1.2	1.3	-0.5
3 (3)	鏡をね返した日光の位置が変化していることを基に、継続して同じ条件で実験を行うために、実験の方法を見直し、新たに追加した手順を書く	自分で発想した実験の方法と、追加された情報を基に、実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつことができる	73.1	69.2	68.9	4.2	2.7	5.2	5.1	-2.4
3 (4)	問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く	実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる	36.0	33.7	35.1	0.9	9.1	11.2	11.2	-2.1
4 (1)	冬の天気と気温の変化を基に、問題に対するまとめを選ぶ	観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる	84.5	81.1	82.3	2.2	0.4	1.2	1.0	-0.6
4 (2)	夜の気温の変化について、他者の予想を基に、記録の結果を表したグラフを見通して選ぶ	予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる	71.6	64.9	64.5	7.1	0.4	1.4	1.3	-0.9
4 (3)	結果からいえることは、提示された結果のどこを分析したものなのかを選ぶ	観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる	52.7	45.5	45.5	7.2	5.3	6.2	6.5	-1.2
4 (4)	鉄棒に付着していた水滴と氷の粒は、何が変化したものかを書く	水は水蒸気になって空気中に含まれていることを理解している	64.0	59.6	62.0	2.0	3.4	6.5	6.2	-2.8

# 中学校国語

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)				無解答率(%)			
			市	道	国	国との比較	市	道	国	国との比較
1一	スピーチの一部を呼びかけたり問いかけたりする表現に直す	聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する	76.8	75.3	74.7	2.1	3.5	4.0	3.8	-0.3
1二	話の進め方のよさを具体的に説明したのとして適切なものを選択する	論理の展開などに注意して聞く	65.1	65.4	65.1	0.0	0.0	0.1	0.1	-0.1
1三	スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く	自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す	44.8	49.8	51.8	-7.0	20.6	18.6	16.2	4.4
2一	意見文の下書きの一部について、文末の表現を直す意図として適切なものを選択する	助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使う	79.0	81.5	82.3	-3.3	0.0	0.2	0.2	-0.2
2二①	漢字を書く(のぞく)	文脈に即して漢字を正しく書く	83.8	80.9	82.1	1.7	7.9	9.7	8.8	-0.9
2二②	漢字を書く(よろこんで)		79.0	80.3	80.5	-1.5	2.5	3.6	3.3	-0.8
2三	農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く	46.7	44.5	46.5	0.2	12.4	10.0	9.0	3.4
3一	「陽炎みたいに揺らめきながら」に使われている表現の技法の名称を書き、同じ表現の技法が使われているものを選択する	表現の技法について理解する	46.7	55.2	52.5	-5.8	0.0	0.7	0.7	-0.7
3二	「途方に暮れた」の意味として適切なものを選択する	事象や行為、心情を表す語句について理解する	81.6	84.8	84.0	-2.4	0.0	0.3	0.3	-0.3
3三	話の展開に沿って「おれ」の行動や心情を並べ替える	場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える	59.0	61.7	62.0	-3.0	1.3	1.0	1.0	0.3
3四	「おれ」は何を「なるほど」と思ったのかについて、話の展開を取り上げて書く	場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する	70.8	73.0	73.8	-3.0	17.8	15.1	13.3	4.5
4一	行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する	行書の特徴を理解する	39.0	38.5	39.4	-0.4	0.3	1.2	0.9	-0.6
4二	最初に書いた文字の漢字のバランスについて説明したものとして適切なものを選択する	漢字の行書の読みやすい書き方について理解する	90.2	89.0	90.1	0.1	0.6	1.4	1.0	-0.4
4三	書き直した文字の「と」の書き方について説明したものとして適切なものを選択する	漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する	79.0	80.5	81.1	-2.1	0.6	1.5	1.1	-0.5

# 中学校数学

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)				無解答率(%)			
			市	道	国	国との比較	市	道	国	国との比較
1	42を素因数分解する	自然数を素数の積で表すことができる	42.2	35.8	52.2	-10.0	14.0	16.1	11.5	2.5
2	連立二元一次方程式 $\begin{cases} 2x + y = 1 \\ y = x + 4 \end{cases}$ を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	70.2	71.1	74.5	-4.3	9.5	6.9	6.1	3.4
3	ある予想がいつでも成り立つかどうかを示すことについて、正しく述べたものを選ぶ	反例の意味を理解している	42.9	45.1	44.9	-2.0	0.3	0.3	0.4	-0.1
4	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ	一次関数の変化の割合の意味を理解している	34.3	36.9	37.9	-3.6	0.6	0.3	0.4	0.2
5	容器のふたを投げたときに下向きになる確率を選ぶ	多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している	77.8	82.1	83.3	-5.5	0.3	0.2	0.3	0.0
6(1)	同じ偶数の和である $2n + 2n = 4n$ について、 $n$ が9のときどのような計算を表しているかを書く	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	68.3	73.2	73.8	-5.5	7.9	6.8	6.0	1.9
6(2)	差が4である2つの偶数の和が、4の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる	34.9	43.5	48.7	-13.8	34.9	24.9	20.0	14.9
6(3)	ある偶数との和が4の倍数になる数について、予想した事柄を表現する	結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見いだし、説明することができる	32.1	36.1	37.6	-5.5	35.6	29.9	26.2	9.4
7(1)	コマ回し大会で使用するコマをヒストグラムの特徴を基に選び、選んだ理由を説明する	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる	42.9	42.4	44.0	-1.1	1.3	1.8	1.4	-0.1
7(2)	箱ひげ図の箱が示す区間に含まれているデータの個数と散らばりの程度について、正しく述べたものを選ぶ	箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる	41.3	45.1	44.1	-2.8	0.6	0.8	0.7	-0.1
8(1)	与えられたグラフにおいて、点Eの座標を書く	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる	52.1	54.3	54.6	-2.5	9.2	7.9	7.2	2.0
8(2)	目標の300kgを達成するまでの日数を求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	25.4	35.6	38.4	-13.0	32.4	26.0	24.4	8.0
9(1)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している	62.9	71.7	73.2	-10.3	12.1	8.6	7.5	4.6
9(2)	$\angle ABE$ と $\angle CBF$ の和が $30^\circ$ になる理由を示し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも $60^\circ$ になることの説明を完成する	筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる	8.3	12.2	12.5	-4.2	48.6	42.5	38.5	10.1

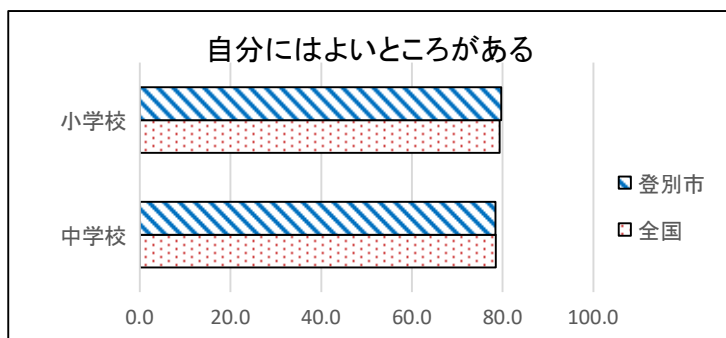
# 中学校理科

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率 (%)				無解答率 (%)			
			市	道	国	国との比較	市	道	国	国との比較
1 (1)	日常生活の中で、物体が静電気を帯びる現象を選択する	日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問うことで、静電気に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	43.5	47.9	44.2	-0.7	0.0	0.0	0.1	-0.1
1 (2)	タッチパネルの反応に水が関係しているかを調べるために、変える条件と変えない条件を適切に設定した実験操作の組合せを選択する	モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できるかどうかをみる	75.2	79.9	78.5	-3.3	0.0	0.1	0.1	-0.1
2 (1)	観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を空気の柱の長さで説明する際、適切な長さの変化を選択する	観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を考える学習場面において、観測地の標高を空間的に捉え、気圧の概念を空気の柱で説明できるかどうかで、気に関する知識及び技能を身に付けているかどうかをみる	55.6	53.2	54.2	1.4	0.3	0.2	0.2	0.1
2 (2)	気圧、気温、湿度の変化をグラフから読み取り、雲の種類の変化と関連付けて、適切な天気図を選択する	継続的に記録した空の様子を撮影した画像と百葉箱の観測データを天気図に関連付けて、天気の変化を分析して解釈できるかどうかをみる	41.0	40.1	40.8	0.2	0.0	0.2	0.3	-0.3
2 (3)	上空の気象現象を地上の観測データを用いて推論した考察の妥当性について判断する	飛行機雲の残り方を科学的に探究する学習場面において、地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善できるかどうかをみる	26.3	27.7	28.5	-2.2	0.3	0.3	0.3	0.0
3 (1)	分子のモデルで表した図を基に、水素の燃焼を化学反応式で表す	化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかをみる	81.0	80.2	80.1	0.9	0.0	0.1	0.1	-0.1
3 (2)	水素を燃料として使うしくみの例の水の質量の変化について、適切なものを選択する	水を電気分解して発生させた水素を燃料として使う仕組みを探究する学習場面において、粒子の保存性の視点から化学変化に関わる水の質量が変化しないことを、分析して解釈できるかどうかをみる	55.9	59.3	60.2	-4.3	0.3	0.3	0.3	0.0
3 (3)	水素を燃料として使うしくみの例の全体を動かせるおおもとを指摘する	化学変化に関する知識及び技能と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、水素を燃料として使うしくみの全体を動かせるおおもととして必要なものを分析して解釈できるかどうかをみる	23.5	24.6	24.8	-1.3	4.4	4.4	4.3	0.1
4 (1)	ダイオウグソクムシとダンゴムシのあしの様子が異なることについて、生活場所や移動の仕方と関連付け、その理由を説明する	節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈できるかどうかをみる	68.6	71.7	74.5	-5.9	10.2	7.2	5.5	4.7
4 (2)	脊椎動物には骨格のつくり共通点があることから、カラスの関節Aに対応するヒトとカエルあしの関節を選択する	複数の脊椎動物の外部形態の観察を行う場面において、あしの骨格について共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、共通点と相違点を分析して解釈できるかどうかをみる	63.8	64.8	65.6	-1.8	0.6	0.2	0.2	0.4
5 (1)	おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する	力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できるかどうかをみる	9.8	12.8	15.3	-5.5	0.6	0.3	0.2	0.4
5 (2)	「ばねが縮む長さは、加える力の大きさに比例するか」という課題に正対した考察を行うために、適切に処理されたグラフを選択する	課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能が身に付いているかどうかをみる	41.9	43.3	45.0	-3.1	1.3	0.5	0.4	0.9
5 (3)	考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすかを説明する	考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善できるかどうかをみる	33.3	42.8	43.3	-10.0	39.4	31.2	29.4	10.0
6 (1)	玄武岩の露頭で化石の観察が可能か判断し、その理由を選択する	玄武岩の露頭で化石が観察できるかを問うことで、岩石に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	44.8	48.4	48.0	-3.2	0.6	0.3	0.3	0.3
6 (2)	陸上のB地点で古生代のサンゴの化石が観察されることについて、垂直方向の変動だけで推論した他者の考察を検討し、水平方向の変動も踏まえた推論が必要であることを指摘する	過去の大地の変動について、垂直方向の移動だけで推論した他者の考察を、水平方向の移動も踏まえて、検討して改善できるかどうかをみる	59.0	58.7	60.3	-1.3	0.6	0.6	0.6	0.0
6 (3)	東西方向と南北方向の地層の断面である露頭のスケッチから、地層が傾いている向きを選択する	地層の広がり方について、時間的・空間的な見方を働かせながら、ルートマップと露頭のスケッチを関連付けて、地層の傾きを分析して解釈できるかどうかをみる	32.4	33.9	34.2	-1.8	0.6	0.7	0.7	-0.1
7 (1)	液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な現象を選択する	液体が気体に変化することによって温度が下がる身近な現象を問うことで、状態変化に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	30.8	37.3	35.9	-5.1	0.6	0.4	0.4	0.2
7 (2)	吸湿発熱繊維に水蒸気を多く含む空気を通した一つの実験だけで行った考察について、課題に正対しているかどうかを検討し、必要な実験を指摘する	実験の結果が考察の根拠として十分かどうかを検討し、必要な実験を指摘して、実験の計画を改善できるかどうかをみる	48.9	54.6	53.4	-4.5	1.3	0.8	1.0	0.3
8 (1)	アリが視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を基に、課題に正対した考察を記述する	アリの行列のつくり方を探究する場面において、視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことができるかどうかをみる	53.3	53.9	55.2	-1.9	15.9	12.9	11.6	4.3
8 (2)	予想や仮説と異なる実験の結果が出る場合、その意味することや考えられる可能性について考え、実験の操作や条件制御の不備の可能性を指摘する	予想や仮説と異なる結果が出る場合について、結果の意味を考え、観察、実験の操作や条件の制御などの探究の方法について検討し、探究の過程の見直しをもつことができるかどうかをみる	47.3	53.9	55.1	-7.8	20.3	15.7	14.9	5.4
8 (3)	生物Xが昆虫類かどうかアリと比較しながら、観点と基準を明確にして判断する	未知の節足動物とアリの外部形態を比較して共通点と相違点を捉え、分類の観点や基準を基に分析して解釈できるかどうかをみる	37.8	39.5	39.2	-1.4	2.5	1.8	1.4	1.1



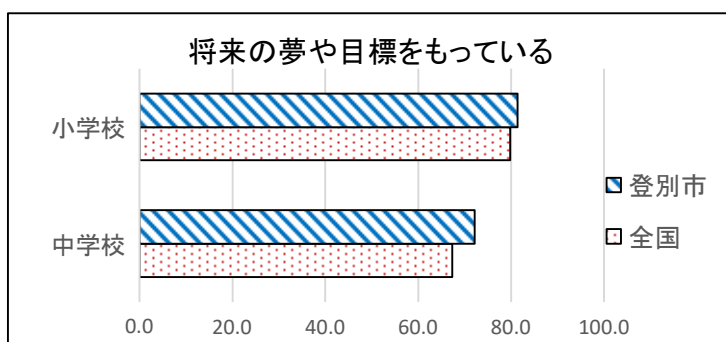
# 児童・生徒質問紙調査より①

## □自分について①

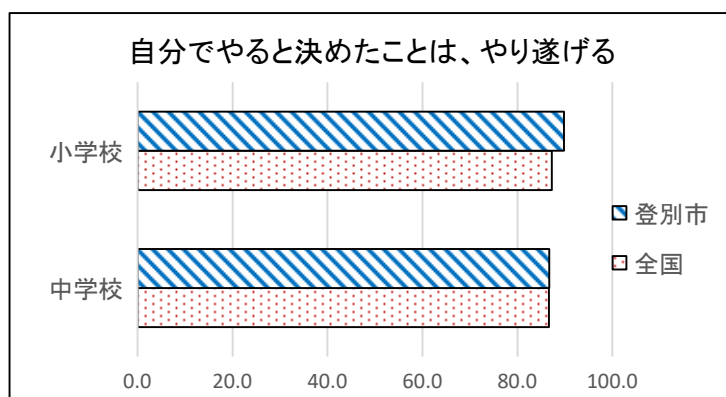


肯定的な回答をした小学生は79.7%で、中学生は78.4%。全国と比べて、小学校で0.4ポイント高く、中学生は0.1ポイント低い。

小学校は全国の割合よりも高い結果となっているが、小学校段階からの継続した自己肯定感の醸成が求められる。

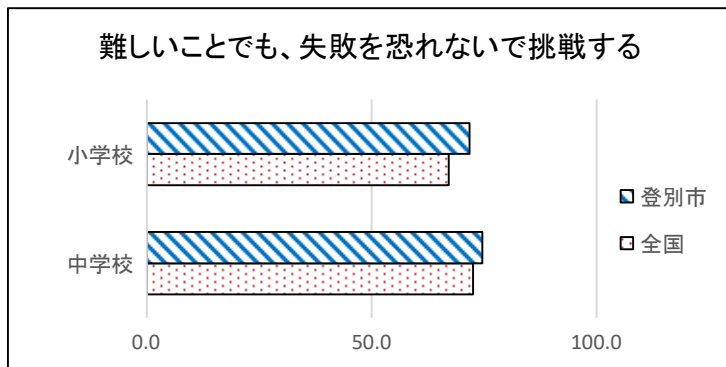


肯定的な回答をした小学生は81.4%、中学生は72.1%。全国と比べて、小学生で1.6ポイント、中学生で4.8ポイント高い。



肯定的な回答をした小学生は89.8%、中学生は86.7%。全国と比べて、小学生2.6ポイント、中学生で0.1ポイント高い。

児童生徒一人一人に達成感や満足感、成就感を与えられるような指導や関わりを継続し、一層強化を図っていく必要がある。

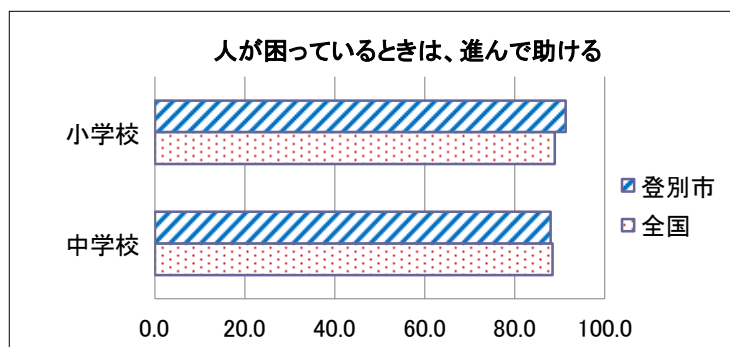


肯定的な回答をした小学生は71.7%、中学生は74.6%。全国と比べて、小学生は4.6ポイント高く、中学生は2.1ポイント高い。

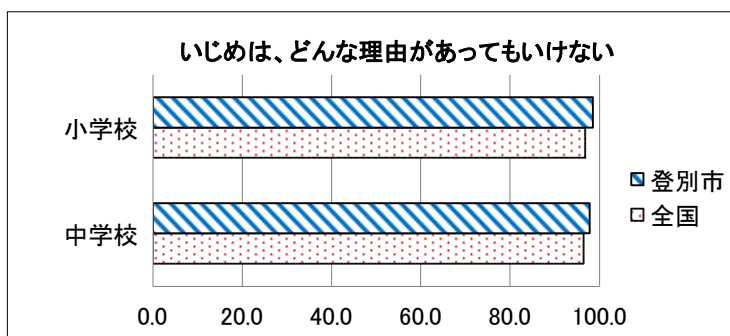
スモールステップで挑戦させるとともに、適宜評価や振り返りを行いながら自己肯定感を醸成し、苦手とすることにも向き合える姿勢を育てていく必要がある。

## 児童・生徒質問紙調査より②

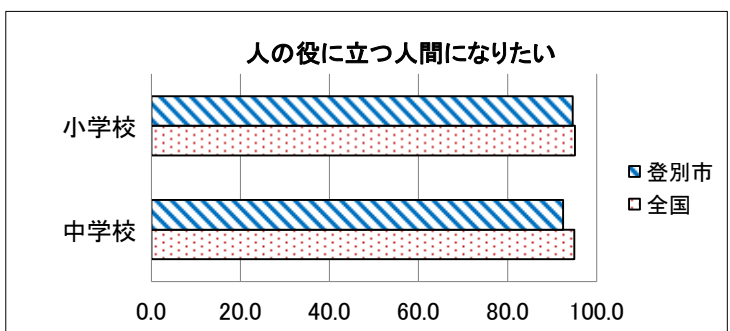
### □自分について②



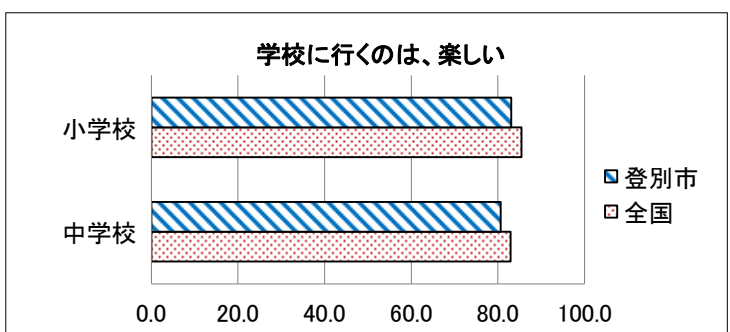
肯定的な回答をした小学生は91.3%、中学生は87.9%。全国と比べて、小学生は2.4ポイント高く、中学生は0.5ポイント低い。



肯定的な回答をした小学生は98.5%、中学生は97.8%。全国と比べて、小学生は1.7ポイント高く、中学生は1.4ポイント高い。



肯定的な回答をした小学生は94.6%、中学生は92.5%。全国と比べて、小学生は0.5ポイント低く、中学生は2.5ポイント低い。自己肯定感とともに、集団における自己有用感の醸成に向けた取組が求められる。

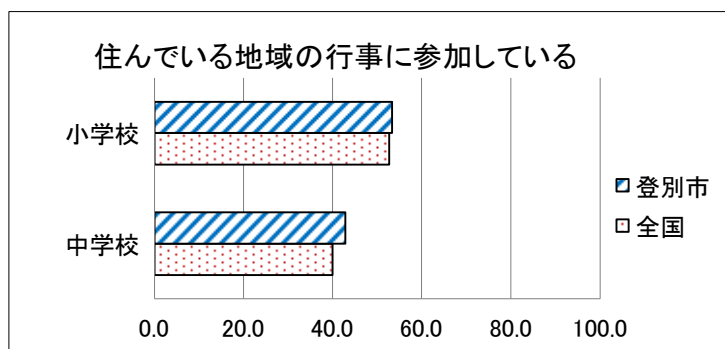


肯定的な回答をした小学生は83.0%、中学生は80.6%。全国と比べて、小学生は2.4ポイント、中学生では、2.3ポイント低い。

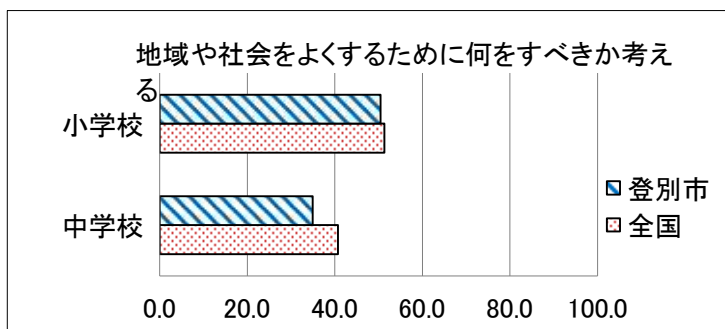
児童生徒の悩みや困り感を明らかにするとともに、分かりやすい授業を展開する必要がある。

## 児童・生徒質問紙調査より③

### □地域・人との関わりについて

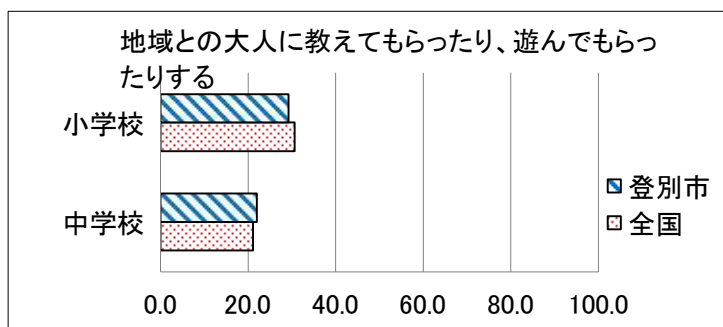


肯定的な回答をした小学生は53.4%、中学生は42.9%。全国と比べて、小学生は0.7ポイント高く、中学生は2.9ポイント高い。



肯定的な回答をした小学生は50.4%、中学生は34.9%。全国と比べて、小学生は0.9ポイント低く、中学生は5.8ポイント低い。

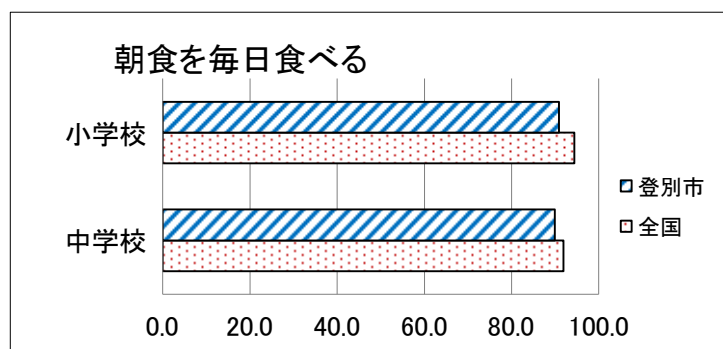
地域を担う人材の育成という観点から、地域・社会の理解を促す取組や教育活動の一層の推進が求められる。「地域や社会の一員である」という意識を高めるようにする。



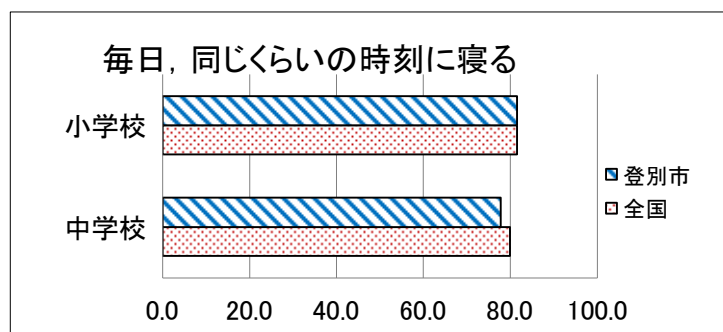
肯定的な回答をした小学生は29.2%、中学生は22.0%。全国と比べて、小学生は1.4ポイント低く、中学生は0.9ポイント高い。

## 児童・生徒質問紙調査より④

### □家庭生活・家庭学習について

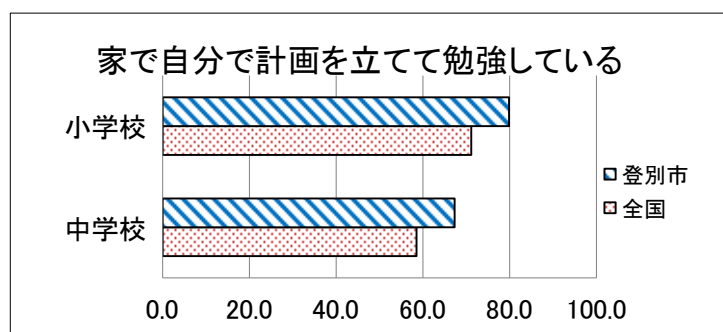


肯定的な回答をした小学生は90.9%、中学生は89.9%。全国と比べて、小学生は3.5ポイント低く、中学生は2.0ポイント低い。

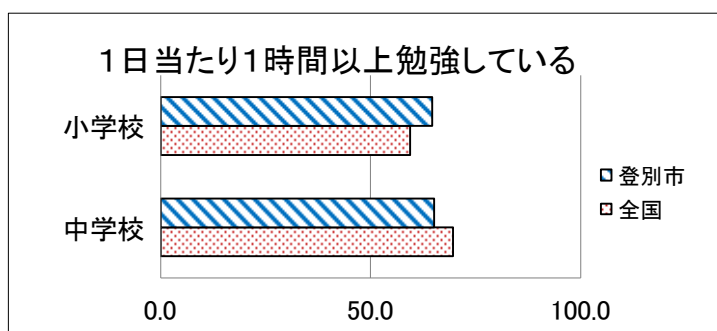


肯定的な回答をした小学生は81.5%、中学生は77.8%。全国と比べて、小学生は同値、中学生ともに2.1ポイント低い。

また、「毎日同じ時刻に起きる」と回答した小学生は92.1%、中学生は94.6%。全国と比べて小学生は1.7ポイント高く、中学生は2.4ポイント高い。



肯定的な回答をした小学生は79.9%、中学生は67.3%。全国と比べて、小学生は8.8ポイント高く、中学生も8.8ポイント高い。

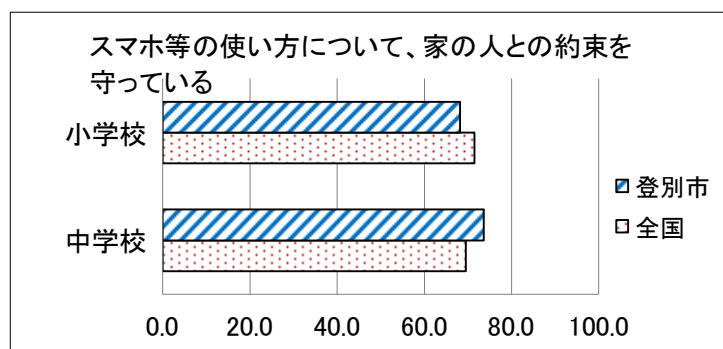


1時間以上学習していると回答をした小学生は64.7%、中学生は65.1%。全国と比べて、小学生は5.3ポイント高く、中学生は4.5ポイント低い。

家庭学習の「目的」「内容」「在り方」「取り組み方」等を適宜見直しながら、今後も主体的に学ぶ姿勢を育むことが求められる。

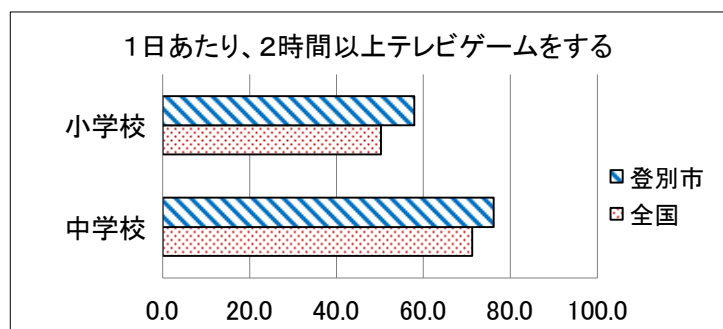
## 児童・生徒質問紙調査より⑤

### □メディア



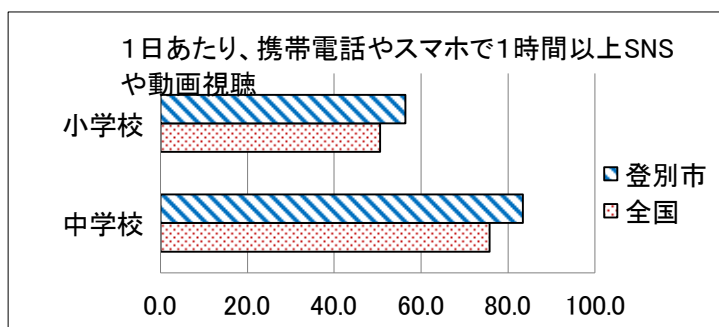
肯定的な回答をした小学生は68.2%、中学生は73.6%。全国と比べて、小学生は3.3ポイント低く、中学生は4.1ポイント高い。

「スマホ3つのルール」だけでなく、新たに「情報モラル啓発資料」「保護者リーフレット」等を作成し、保護者周知を図ってきたところ。児童生徒のスマホ等の利用に当たっては、家庭でもルールを決めるだけでなく、そのルールを遵守することに重点をおいて理解を深めていく必要がある。



2時間以上テレビゲームをすると回答した小学生は、57.9%（昨年度58.2%）、中学生は76.2%（昨年度61.1%で15.1ポイントの増加）。全国と比べて、小学生は7.7ポイント高く、中学生は4.9ポイント高い。

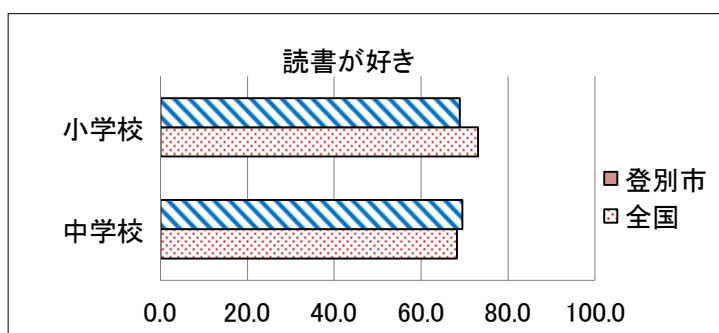
テレビゲームに限らず、児童生徒のメディアに接する時間が、学習時間や生活リズムに影響を及ぼしていること、特に中学生にその傾向が顕著であることが明らかになった。



#### 新規設問

スマホ等で1時間以上SNSや動画視聴すると回答した小学生は、56.4%、中学生は83.4%。全国と比べて、小学生5.8ポイント高く、中学生は7.6ポイント高い。

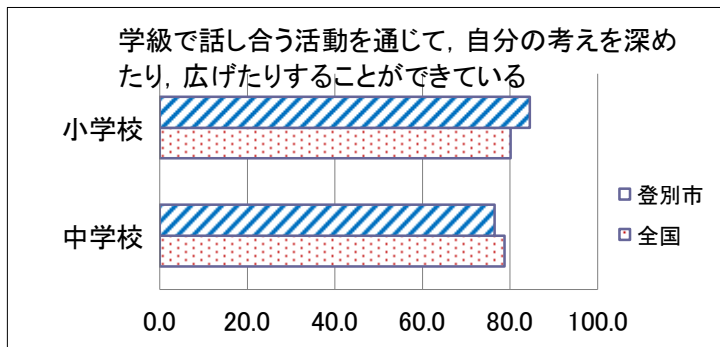
テレビゲームとともに、SNSや動画視聴も、学習時間や生活リズムに影響を及ぼしていることが分かる。



肯定的な回答をした小学生は、68.9%、中学生は69.5%。全国と比べて、小学生は4.2ポイント低く、中学生は1.3ポイント高い。

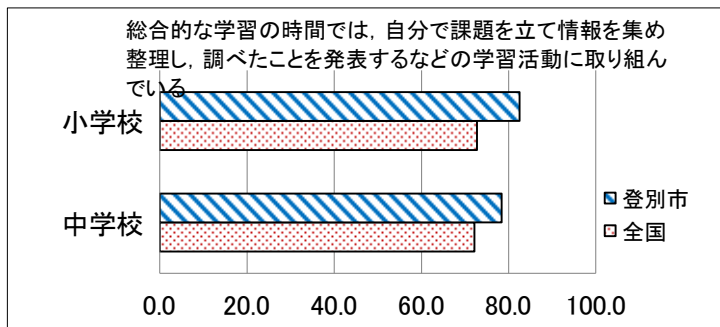
## 児童・生徒質問紙調査より⑥

### □学校での学習について

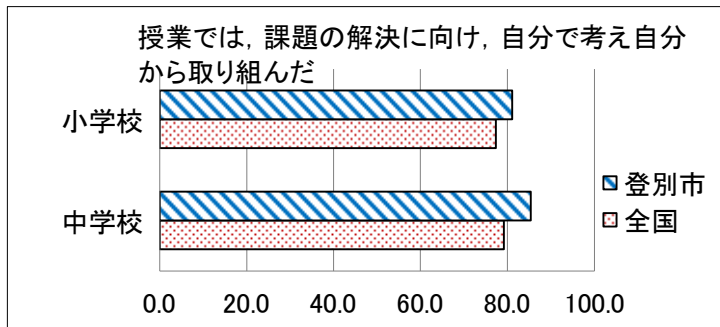


肯定的な回答をした小学生は84.5%、中学生は76.5%。全国と比べて、小学生で4.4ポイント高く、中学生で2.2ポイント低い。

今後も、学習等において、様々な学習形態において自己表現の場を設定するとともに、その中で、他者の考えを基に考えを広げたり深めたりする経験を多く積ませていく必要がある。

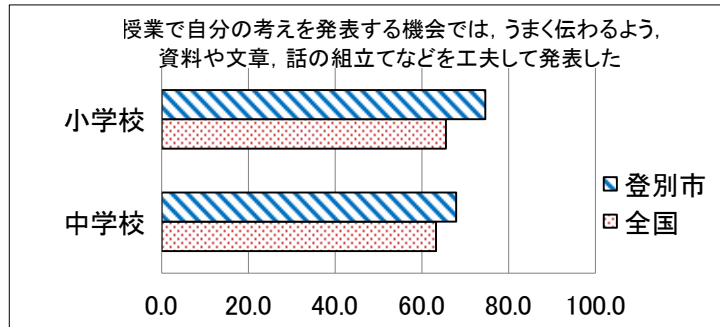


肯定的な回答をした小学生は82.5%、中学生は78.4%。全国と比べて、小学生は9.8ポイント、中学生で6.3ポイントと上回っている。

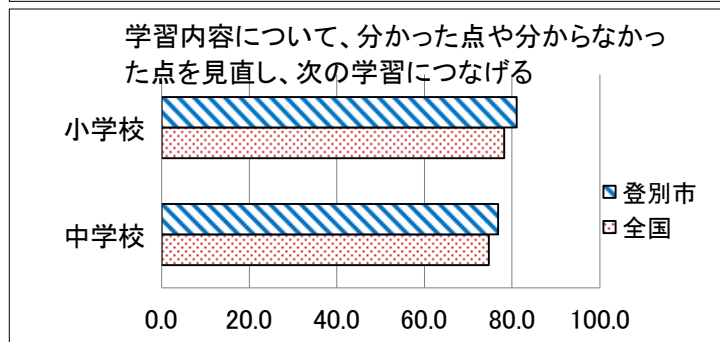


肯定的な回答をした小学生は81.1%、中学生は85.4%。全国と比べて、小学生は3.7ポイント、中学生は6.2ポイント高い。

児童生徒の肯定的評価が高いことから、今後は、取組の強化とともに、振り返りを意識させることで、自身の成長を認識し、課題を自分事として受け止めやすくなるものと思われる。



肯定的な回答をした小学生は74.6%、中学生は67.9%。全国と比べて、小学生は9.1ポイント高く、中学生は4.6ポイント高い。

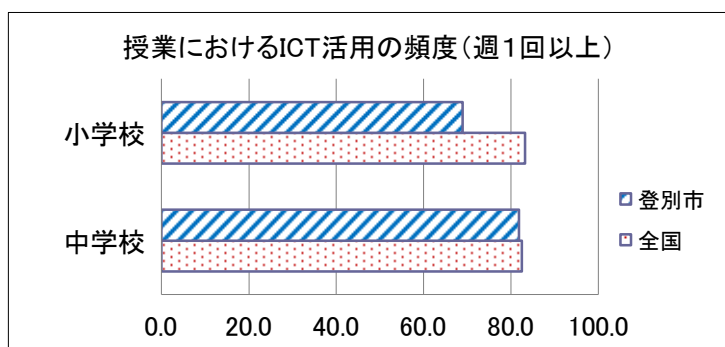


肯定的な回答をした小学生は81.1%、中学生は76.8%。全国と比べると、小学生は2.9ポイント高く、中学生は2.1ポイント高い。

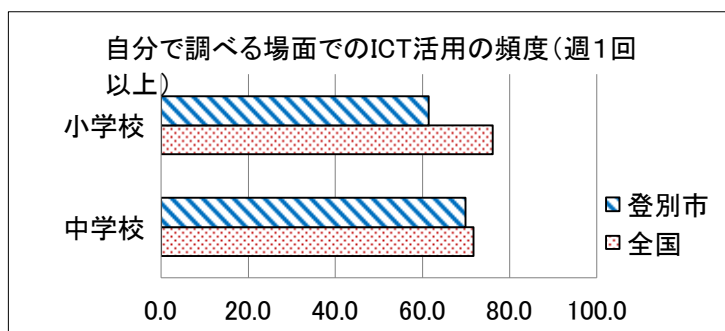
授業におけるまとめや振り返りを充実させながら、次の課題につなげることが求められている。

## 児童・生徒質問紙調査より⑦

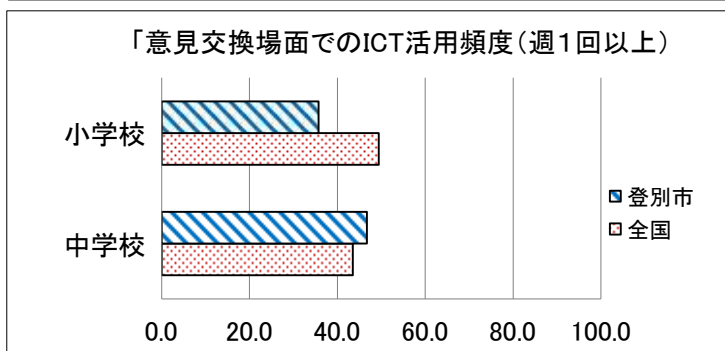
### □ICT機器の活用について



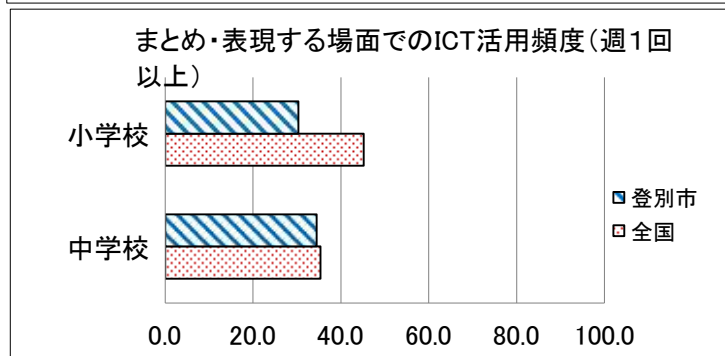
「授業において週1回以上ICTを活用している」と回答した小学生は、68.9%、中学生は81.8%で、全国と比べると、小学生は14.3ポイント低く、中学生は0.7ポイント低い。



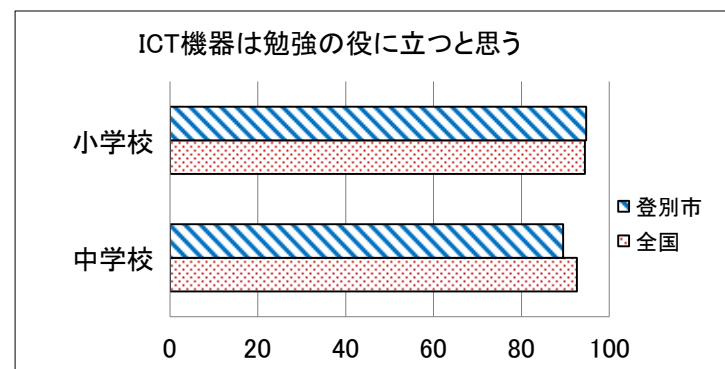
「調べる場面において、週1回以上、ICTを活用している」と回答した小学生は61.4%、中学生69.9%。全国と比べて、小学生は14.7ポイント低く、中学生は1.8ポイント低い。



意見交換の場面において、週1回以上、ICTを活用している」と回答した小学生は35.7%、中学生は46.7%。全国と比べて、小学生は13.7ポイント低く、中学生は3.2ポイント高い。



まとめ・表現する場面において、週1回以上ICTを活用している」と回答した小学生は30.3%、中学生は34.5%。全国と比べて、小学生は14.9ポイント低く、中学生は0.8ポイント低い。



肯定的な回答をした小学生の割合は94.7%、中学生は89.5%。全国と比べて、小学生は0.3ポイント高く、中学生は3.1ポイント低い。